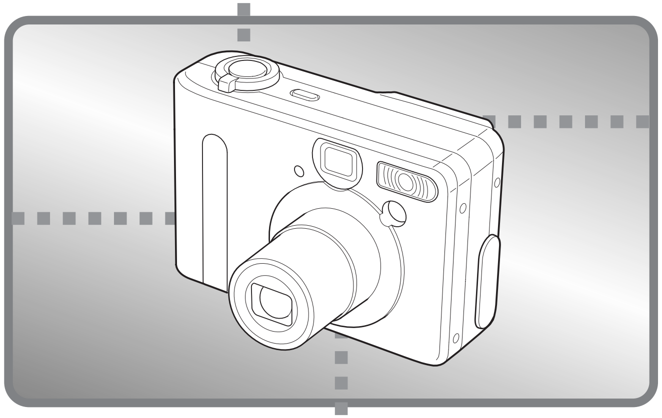
液晶デジタルカメラ

QV-R4

取扱説明書（保証書付き）



ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ず「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
また、本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

J Z

はじめに
早分かりガイド
準備する
撮影する（基本編）
撮影する（応用編）
再生する
消去する
ファイルの管理について
その他の設定について
メモリーカードを使用する
パソコンでファイルを活用する
付　録

CASIO

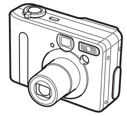
K862FCM1PMJ

はじめに

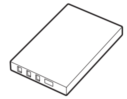
付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

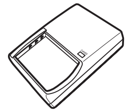
デジタルカメラ本体



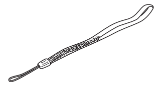
リチウムイオン充電池（NP-30）



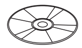
充電器（BC-20）



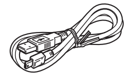
ストラップ



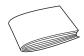
CD-ROM



専用USBケーブル



取扱説明書



取扱説明書（保証書付き）

目次

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet ExplorerおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国アップルコンピューター社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。
- AcrobatおよびAcrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- USB ドライバ(マスストレージ)はPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。
Compatibility Software Copyright© 1997
Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved.
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機(株)の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機(株)に帰属します。

本機の特徴

- 高画質原色CCD採用
  肌の豊かな階調表現から風景の細かい描画まで、思い描いた画像を撮ることができます。
- 有効画素数
  400万画素（総画素数413万画素）
- 1.6型TFTカラー液晶モニター搭載
- 9.6倍シームレスズーム搭載
  光学ズーム3倍／デジタルズーム3.2倍
- 11MBフラッシュメモリー内蔵
  メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。
- 拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC（マルチメディアカード）に対応
- 2つの記念撮影支援機能を搭載
  二人きりでも二人揃って記念撮影ができるカップリングショット機能、安心して他人に構図をまかせることができるプリショット機能があります。
- トリプルセルフタイマーモード搭載
  セルフタイマー撮影を自動的に3回くり返すモードを搭載しました。
- ベストショット機能搭載
  煩わしい設定をカメラが自動的に行うので、簡単に綺麗な写真を撮ることができます。
- リアルタイムヒストグラム機能を搭載
  ヒストグラム表示を確認しながら露出の調節ができます。難しい露出条件でも、意図した露出の画像を手軽に撮影できます。
- ワールドタイム機能搭載
  簡単に現地の時間にセットできます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。
- アラーム機能搭載
  アラーム機能付きですので、目覚まし時計の代わりにもなります。また、登録した画像をアラームと同時に表示させることもできます。
- アルバム機能搭載
  撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、Webブラウザで見たり、印刷することができます。また、自分のホームページ用データとしても利用することができます。
- カメラとパソコンをUSBケーブルで接続するだけで、簡単にパソコンへ画像データを転送することができます。
- 「Photo Loader」、「Photohands」付属
  好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderの最新版を付属。レタッチ機能を備えたPhotohandsも付属。更に多彩に画像を活用できます。

- DCF（Design rule for Camera File system）対応
  画像データは統一規格のDCF規格に準拠しているため、同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- DPOF（Digital Print Order Format）対応
  DPOF規格に対応しているため、同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- PRINT Image MatchingⅡ対応
  本製品はPRINT Image MatchingⅡに対応しています。PRINT Image MatchingⅡ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

使用上のご注意

撮影前のご注意

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

－記録、通信中に電池をはずしたり、ACアダプターをはずした
－撮影中などにメモリーカードを抜いた
－電源を切ったときに【動作確認用ランプ】が点滅している状態で電池やACアダプターを抜いた、メモリーカードを抜いた
－通信中にUSBケーブルがはずれた
－消耗した電池を使用し続けた
－その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります（112ページ）。画面に対応したご処置をお願いいたします。

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  －直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  －冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  －日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池ブタを開けたまま数時間放置してください。

LEDバックライトについて

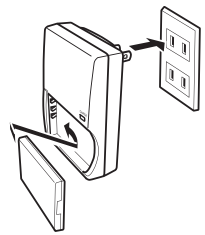
- 液晶画面のバックライトに使用されているLEDには寿命があります。液晶画面が暗くなった場合は、最寄りのカシオテクノ・サービスステーション（117ページ）までご連絡ください。有償にてお取り替え致します。LEDの明るさは、約1,000時間で半減します。

レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

早分かりガイド

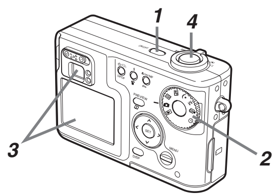
準備する



1. 充電器に電池をセットし、充電します（20ページ）。
   - 約2時間でフル充電されます。
2. カメラに電池を入れます（22ページ）。
3. 画面メッセージの言語、自宅の都市、日時を設定します（31ページ）。

撮影する

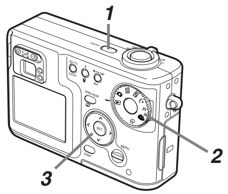
（詳しくは32ページ参照）



1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
2. 【モードダイヤル】を"📷"に合わせます。
3. カメラを撮影する被写体に向け、【液晶モニター】または【ファインダー】を覗いて【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。
4. カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。

撮影した画像を見る（再生する）

（詳しくは67ページ参照）



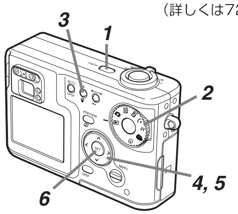
1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードダイヤル】を“▶”に合わせます。

3. 【<】【>】を押すと、記録した画像の戻し／送りができます。

撮影した画像を消去する

（詳しくは72ページ参照）



1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードダイヤル】を“▶”に合わせます。

3. 【 】を押します。

4. 【<】【>】を押して、消去したい画像を選びます。

5. 【∧】【∨】を押して、“消去”を選びます。
- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

6. 【SET】を押します。
- 画像が消去されます。

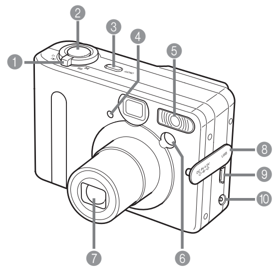
準備する

初めてご使用になる方はここからお読みになり、撮影前の準備を行ってください。

各部の名称

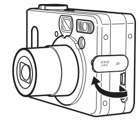
この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

前面部

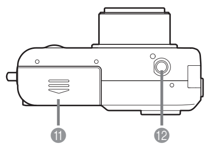


① 【ズームレバー】
② 【シャッター】
③ 【電源ボタン】
④ 【セルフタイマーランプ】
⑤ 【フラッシュ】
⑥ 【AF補助光】
⑦ 【レンズ】
⑧ 【端子カバー】
⑨ 【USB】
⑩ 【DC IN 4.5V】

端子カバーの開きかた

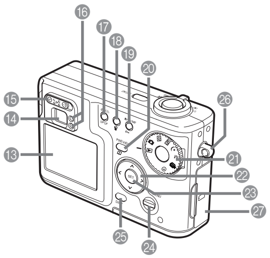


底面部



⑪ 【電池ブタ】
⑫ 【三脚穴】
※ 三脚に取り付けるときに使用します。

背面部



⑬ 【液晶モニター】
⑭ 【ファインダー】
⑮ 【視度調整スライダー】
⑯ 【動作確認用ランプ】
⑰ 【 / 　DPOF】(セルフタイマー／連続撮影／DPOF)
⑱ 【 　 】(フラッシュ／消去)
⑲ 【 /∞/MF 　】(マクロ／無限遠／マニュアル／プロテクト)
⑳ 【PREVIEW 　】(プレビュー／アルバム)
㉑ 【モードダイヤル】

▶	：再生モード	
	：通常モード	撮影モード
BS	：ベストショットモード	撮影モード
	：カップリングショットモード	撮影モード
	：夜景モード	撮影モード
M	：マニュアル露出モード	撮影モード
	：ムービーモード	撮影モード
	：インターバルモード	撮影モード

㉒ 【∧】【∨】【<】【>】
㉓ 【SET】
㉔ 【MENU】
㉕ 【DISP】
㉖ 【ストラップ取り付け部】
㉗ 【メモリーカードカバー】

液晶モニター

【液晶モニター】にさまざまな情報が表示されます。

撮影モード時



セルフタイマー／連続撮影
なし（1枚撮影）
（セルフタイマー10秒）
（セルフタイマー2秒）
（トリプルセルフタイマー）
（連続撮影）

フォーカスモード
なし（オートフォーカス）
（マクロ）
∞（無限遠）
MF（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカス位置

フォーカスフレーム
- ピント合わせ完了時：緑色に点灯
- ピント合わせ不可時：赤色に点灯

モード
▶（再生モード）
（通常モード）
BS（ベストショットモード）
（カップリングショットモード）
（夜景モード）
M（マニュアルモード）
（ムービーモード）
（インターバルモード）
（通常モード）〜（インターバルモード）：撮影モード

撮影可能枚数

画像サイズ
2304 ×1712 pixels
2240 ×1680 pixels
1600 ×1200 pixels
1280 × 960 pixels
640 × 480 pixels
ムービーモード時：秒数

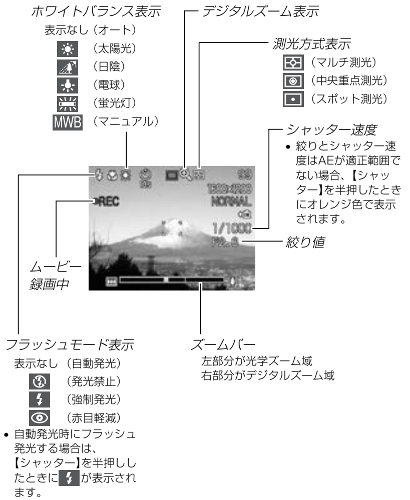
画質
FINE（高精細）
NORMAL（標準）
ECONOMY（エコノミー）

メモリー表示
IN（内蔵メモリー使用中）
（メモリーカード使用中）

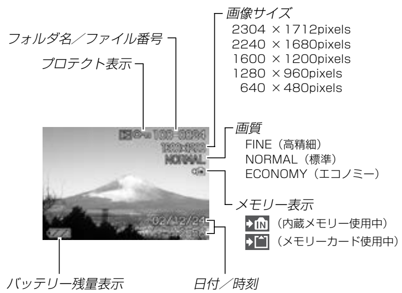
バッテリー残量表示

露出補正表示

日付／時刻



再生モード時



液晶モニターの表示内容を切り替える

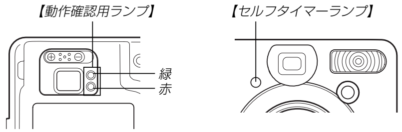
【DISP】を使って、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

情報表示オン（16ページ） → ヒストグラム表示オン（60ページ） → 情報表示オフ → 液晶モニター※オフ

※ 再生モードでは【液晶モニター】はオフにはなりません。

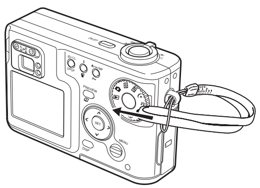
ランプについて

ランプの色や点灯、点滅によって動作状況を知ることができます。詳しくは「ランプの状態と動作内容」（107ページ）をご覧ください。



ストラップの取り付けかた

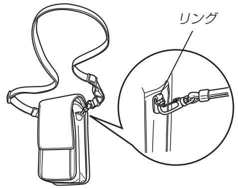
ストラップは、図のように【ストラップ取付部】に取り付けます。



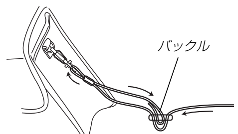
重要!
- 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに手を通した状態で使用してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

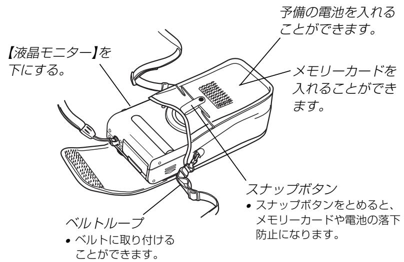
ソフトケースの使いかた（別売品）

ご使用にならないときは、本機をソフトケースQSC-4（別売品）に入れて保管することをおすすめします。
ソフトケース用ストラップは、図のようにソフトケースのリングに取り付けます。



ソフトケース用ストラップの長さは、ソフトケース用ストラップのバックル部で調節してください。





重要!
- ソフトケースには本機以外は入れないでください。
- ソフトケース用ストラップは本機のソフトケース専用です。他の用途に使用しないでください。
- ソフトケース用ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- ソフトケース用ストラップを首にかけたまま本機を固定しないで持ち運ぶと、本体に衝撃を与えたり、ドアに挟まったりして、故障やケガの原因となりますのでご注意ください。
- 本機は、幼児の手の届かないところへ保管してください。誤ってソフトケース用ストラップが首に巻きつくなど、事故発生の恐れがあります。

電源について

本機は下記のいずれかの電源が利用できます。

- 電池
  専用リチウムイオン充電池NP-30：1個

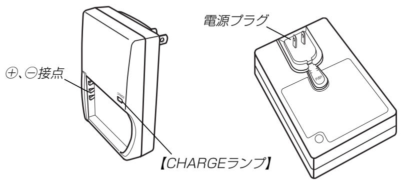
  電池は、最初充電されておりません。「充電器の使いかた」に従って充電してください。

- 家庭用電源
  ACアダプター：AD-C40（別売）

充電器の使いかた

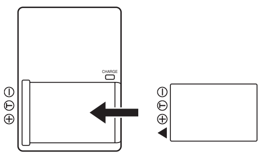
この充電器で専用リチウムイオン充電池（NP-30）を充電できます。

■充電器の各部の名称



■電池の入れかた

電池と充電器の極性を合わせ入れてください。向きが違っていると充電できません。

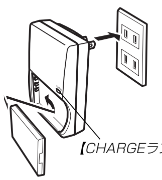


■充電式電池を充電する

1. **電池と充電器の極性を上記のように合わせ、電池を充電器にセットします。**

2. **充電器を家庭用コンセントに接続します。**

- 充電器の【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電を開始します。



3. **充電を完了すると【CHARGEランプ】が緑色に点灯しますので、充電器をコンセントから取りはずし、その後充電器から電池を取りはずします。**

重要!
- 約2時間※でフル充電されます。
  ※充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- 専用リチウムイオン充電池(NP-30)の充電は、必ず付属の充電器(BC-20)をお使いください。他の充電器は使用できません。
- カメラ使用直後や周辺温度が高温状態または低温状態で充電しようとすると、充電が開始されない場合があります(【CHARGEランプ】が赤色に遅く点滅します)。その場合は常温で放置し、電池の温度が充電可能な温度になると、充電を開始します(【CHARGEランプ】が赤色点灯に変わります)。
- 充電操作中に充電器や電池に異常が発生している場合は【CHARGEランプ】が赤色に速く点滅します。電池のセット(装着)不良の場合も同様に点滅しますので、電池を充電器から取りはずし、電池をセットし直してみてください。
- 充電器の⊕、⊖接点や、電池の端子がひどく汚れた場合は布などで拭き取ってください。
- 電源プラグは構造上はずせるようになっていますが、はずさないでください。

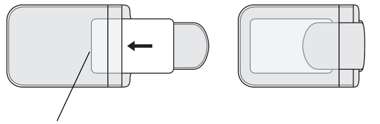
■別売電池について

本機に使用できるリチウムイオン充電池(NP-30)は、お客様の予備用として、同じ仕様の別売品を用意してあります。

リチウムイオン充電池　　NP-30

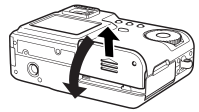
- 予備用の電池を携帯する場合は、別売品に付属されている「収納ケース」に電池を収納し保管してください。電極端子がむき出したままで保管するとショートの恐れがあり危険です。
  予備用でない方は携帯時はカメラに入れたまま保管してください。カメラに付属の電池には収納ケースは付属しておりません。

収納ケースへの入れかた

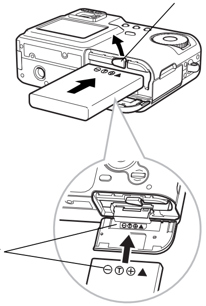


充電式電池を入れる

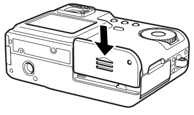
1. **本体側面の【電池カバー】を矢印の方向にスライドさせて開きます。**



2. **図のようにストッパーを矢印の方へずらし、カメラと電池の極性を合わせるようにして、電池をセットします。**



3. **【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。**



重要!
- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池(NP-30)をお使いください。他の電池は使用できません。

参考
- 電池を取り出したいときは、【電池カバー】を開き、ストッパーをずらしたままカメラを傾けてください。電池が出てきますので、引き抜いてください。電池を落とさないようご注意ください。

電池寿命について

■電池寿命の目安

下記の電池寿命は、標準温度(25℃)で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

連続撮影時間(撮影枚数)※1	約1時間50分(約660枚)
連続再生時間(静止画)※2	約3時間40分

- 測定条件
  ※1 連続撮影
  標準温度(25℃)、フラッシュ非点灯、液晶モニターオン、約10秒に1枚撮影
  (ズームを広角に → オートフォーカス動作 → ズームを望遠に → オートフォーカス動作 → 撮影の繰り返し)
  ※2 連続再生
  標準温度(25℃)、約10秒に1枚ページ送り
- 上記数値は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

■電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、フラッシュの発光方法を（発光禁止）に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります(39ページ)。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能(28ページ)を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます。
- 【DISP】を押して【液晶モニター】をオフにすると、消費電力が小さくなります。

■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。の状態で使用し続けると、自動的に電源が切れます。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ←――――――→ 少
画面情報表示	→ → →

- の状態のときは、【シャッター】を押すと電源が切れます。

電源に関する使用上の注意

■電池使用時の注意

使用上のご注意

- この電池は、カシオデジタルカメラ専用のリチウムイオン充電池です。適応機種については、お使いのカメラの取扱説明書でご確認ください。
- 充電は必ず専用の充電器を使用してください。他の充電器は使用できません。
- 電池は、最初は充電されておりません。必ず最初に充電してください。
- 寒い場所では、電池の特性上、充分に充電された電池を使用しても、使用時間が短くなります。
- 充電は10℃～35℃の温度範囲で行ってください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、充分な充電ができないことがあります。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。

保存上のご注意

- リチウムイオン充電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
  - しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
  - 使用しないときは必ず充電池をデジタルカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、こわれたりします。
  - 乾燥した涼しい場所（20 ℃以下）で保管してください。

リサイクルのお願い

Li-ion

不要になった電池は、貴重な資源を守るため廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

最寄りのリサイクル協力店問い合わせ先
社団法人 電池工業会
- TEL　03-3434-0261
- ホームページ　http://www.baj.or.jp/

- 使用済み充電式電池の取り扱い注意事項
  - ⊕端子、⊖端子をテープで絶縁してリサイクル箱へ。
  - 被覆ははがさないでリサイクル箱へ。
  - 分解しないでリサイクル箱へ。

■充電器使用時の注意

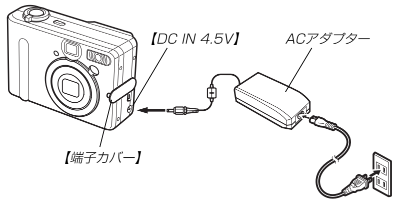
- 充電中、充電器は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、充電器をコンセントから必ずはずしてください。

家庭用電源を使う

家庭用電源から電源を取るには専用のACアダプターが必要です。

1. **【端子カバー】を開きます。**

2. **ACアダプターのプラグを【DC IN 4.5V】に接続します。**



- ACアダプター：AD-C40（別売）

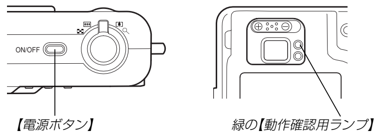
※ ACアダプターはAC100～240Vの電源に対応していますので、海外への旅行の際もご利用になれます。海外でのご使用では各地域に合った市販の電源コードをお買い求めください。

■ACアダプター使用時の注意

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ず本機の電源を切った状態で行ってください。
- 本機に電池をセットした状態でACアダプターを使う場合でも、電源を入れたままACアダプターの抜き差しをするのはおやめください。電源を入れたままACアダプターの抜き差しを行うと製品保護のために本機の電源は一度切れますが、保護しきれずに故障の原因となります。
- ACアダプターは、長時間ご使用になりますと若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターのプラグを差し込むと、電池よりもACアダプターが優先されます。
- パソコンと接続する際は、ACアダプターをお使いください。
- ACアダプターの上に毛布などがかぶらないようにしてください。火災の原因となります。

電源を入れる／切る

電源の入／切は【電源ボタン】で行います。
【電源ボタン】を押すと電源が入り、緑の【動作確認用ランプ】が点滅します。再度【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。



重要!
- オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、【電源ボタン】を押して、再度電源を入れてください。
- 撮影モードで電源を入れると、レンズが出てきます。その際にレンズを押さえたり、ぶつけたりしないようご注意ください。

電池の消耗を抑えるための機能

電池の消耗を抑えるために、以下の2通りの設定ができます。

オートパワーオフ：一定時間操作しないと電源が切れます。
スリープ：撮影モード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。

1. **【モードダイヤル】を“📷”（撮影モード）に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **【<】【>】で“設定”タブを選びます。**

4. **【∧】【∨】で設定したい項目を選び、【>】を押します。**

オートパワーオフの設定：“オートパワーオフ”
スリープの設定：“スリープ”
- メニューのたどりかたについては29ページを参照してください。

5.【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

オートパワーオフの設定内容：“3分”“5分”“切”

スリープの設定内容：“30秒”“1分”“2分”“切”

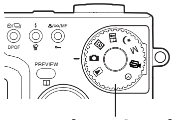
- 再生モードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- 以下の状態では、オートパワーオフ、スリープは働きません。
  - 本機のUSB端子を通じて本機を外部のパソコンなどと接続しているとき

メニュー画面の操作について

本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容は撮影モードと再生モードでは異なります。ここでは例として撮影モードでの操作を説明します。

1. 電源を入れ、【モードダイヤル】を“📷”に合わせます。

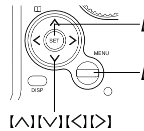
- 再生モードにして操作を行うときは“▶”に合わせます。



【モードダイヤル】

2.【MENU】を押します。

- メニュー画面が表示されます。



【SET】

【MENU】

【∧】【∨】【<】【>】

タブ



設定項目

●メニュー画面で使うキーについて

【<】【>】	タブを選びます。【>】は項目の決定にも使います。
【∧】【∨】	設定項目を選びます。
【SET】	選択した項目に決定します。
【MENU】	メニュー画面の操作を中断します。

3.【<】【>】で設定したい項目のあるタブを選びます。

4.【∧】【∨】で設定したい項目を選び、【>】を押します。

- 【>】を押す代わりに【SET】を押しても、次の画面に移ります。



例）設定項目“サイズ”を選んだ場合

5.【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- 選択した設定内容に決定されます。

参考
- 撮影モードのメニューは各撮影モードの撮影直前の画面で表示させることができます。インターバル撮影の設定中やベストショット撮影のシーン選択中、カップリングショット撮影の2回目の撮影時などでは、【MENU】を押してもメニューは表示されません。

- メニューの内容については「メニュー一覧表」（105ページ）を参照してください。

表示言語／日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

- 画面のメッセージの言語設定
- 自宅の都市の設定
- 日時設定（この日時は、印刷情報などに利用されます）

- 電池やACアダプターで電源が供給されないと、約12時間で日時がリセットされてしまいます。電池を充電したらすぐに、電池をカメラにセットしてください。また、電池が入っていても電池が消耗すると、日時はリセットされます。その場合は、日時設定画面が表示されますので、再度日時設定してください。
- 日時がリセットされているときに電源を入れると、毎回、設定画面が表示されます。
- 日時を設定しないと、間違った時間データによって記録されてしまいますので、必ず設定してください。

1.【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2.【⊠】【⊠】で言語を選び、【SET】を押します。

日本語　：日本語
English　：英語
Français：フランス語
Deutsch　：ドイツ語
Español　：スペイン語
Italiano　：イタリア語

3.【∧】【∨】【<】【>】で自分の住んでいる地域を選び、【SET】を押します。



4.【∧】【∨】で自分の住んでいる都市を選び、【SET】を押します。



5.【∧】【∨】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。

入：サマータイムになります。

切：通常の時刻になります。

6. 日付と時刻を合わせます。

【∧】【∨】を押す	カーソル（選択枠）の部分の数字などを変えます。
【<】【>】を押す	カーソル（選択枠）を移動します。
【DISP】	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

7.【SET】を押して、設定を終了します。

撮影する（基本編）

ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

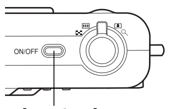
基本的な撮影のしかた

本機では撮影モードの中でも、通常撮影モードでの撮影が基本となります。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵フラッシュメモリーに保存されます。

- 市販のメモリーカード（SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉）に保存することもできます（85ページ）。

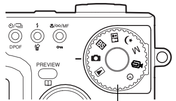
1.【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。



【電源ボタン】

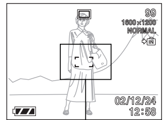
2.【モードダイヤル】を“📷”（通常撮影モード）に合わせます。



【モードダイヤル】

3.【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

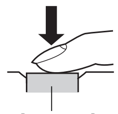
- 撮影できる範囲は、約40cm〜∞です。
- 【ファインダー】から被写体を見て撮影することもできます（36ページ）。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは【DISP】を押して、【液晶モニター】を消すことで、電力の消費を減らすことができます。



【フォーカスフレーム】

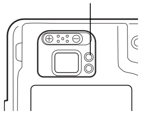
4.【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。



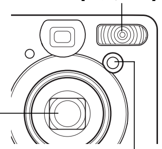
【シャッター】

- ピントは【フォーカスフレーム】や緑の【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

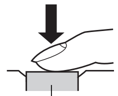


ピントが合う
【フォーカスフレーム】：緑点灯
【動作確認用ランプ】　：緑点灯
ピントが合わない
【フォーカスフレーム】：赤点灯
【動作確認用ランプ】　：緑点滅

- 【レンズ】や、【AF補助光】【フラッシュ】を指でふさがないでください。



5. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。



- 撮影された画像は、いったん本機に内蔵のバッファメモリーに記憶され、順次内蔵フラッシュメモリーやメモリーカードに保存されます。バッファメモリーがいっぱいになるまで、連続して撮影を続けることができます。
- サイズ、画質によって保存できる枚数が異なります(114ページ)。
- 手ぶれを起さないために、【シャッター】は静かに押してください。

撮影時のご注意

- 緑の【動作確認用ランプ】が点滅している間に【電池ブタ】を開けることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- 被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- 被写体が暗いときは感度を上げてシャッタースピードを早くなるようにしていますが、フラッシュの発光方法(39ページ)が(発光禁止)のときには手ぶれに注意してください。

オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。
  - 階調の無い壁などコントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 光沢のある金属など明るく反射している被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 手ぶれをしているとき
  - 動きの速い被写体
- 緑の【動作確認用ランプ】が点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(47ページ)やマニュアルフォーカス(46ページ)をご利用ください。

撮影時の画面について

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、記録画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

最後に撮影した画像を確認する

撮影モードでも最後に撮影した画像を表示(プレビュー)することができます。

1. 【PREVIEW】を押します。

最後に撮影した画像が、簡易画像で表示されます。

- 再度【PREVIEW】を押すと、撮影モードに戻ります。
- 電源を入れた直後や再生モードから撮影モードに戻った直後に【PREVIEW】を押しても動作しません。
- ムービーモードではプレビューはできません。また、撮影モードを切り替えるとプレビュー画像はクリアされます。

最後に撮影した画像を消去する

撮影モードでも最後に撮影した画像を消去することができます。

重要! • 一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要な画面かどうかをよく確かめてから行ってください。

1. 【PREVIEW】を押して、簡易画像を表示させます。

2. 【⚡ 🗑】を押します。

3. "消去"を選びます。

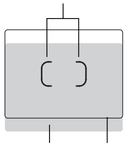
- 消去を中止する場合は"キャンセル"を選びます。

4. 【SET】を押します。

- 最後に撮影した画像が消去され、撮影モードに戻ります。

ファインダーを使って撮影する

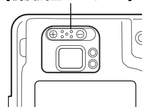
本機には【ファインダー】が付いていますので、電池の消耗をおさえるために【液晶モニター】をオフにし、【ファインダー】を使って撮影することができます。



重要!
- 撮影範囲フレームは約3m離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近かったり遠かったりする場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。
- マクロモードやマニュアルフォーカスモードにすると、自動的に【液晶モニター】がオンになりますので、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

ファインダーの度数を調整する

【視度調整スライダー】を使うと、撮影する方の視力に応じて【ファインダー】の度数を調整することができます。被写体が鮮明に見えるように調整してください。



重要! • 電源が切れている状態や再生モードでは、【ファインダー】のピントは合っていません。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

光学ズーム

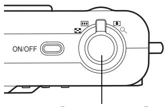
光学ズーム機能により、レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1〜3倍

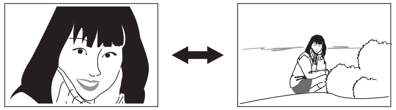
1. 撮影モードにします。

2. 【ズームレバー】をスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

（広角）：広角になります。
（望遠）：望遠になります。



【ズームレバー】


望遠　　広角

3. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

デジタルズーム

デジタルズーム機能により、光学ズームが最も望遠になった（3倍）状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率：3〜9.6倍（光学ズーム併用）

1. 撮影モードにして【MENU】を押します。

2. 【<】【>】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【∧】【∨】で"デジタルズーム"を選び、【>】を押します。

4. "入"を選び、【SET】を押します。
- "切"を選ぶと、デジタルズームは働きません。

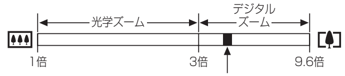
5. 【ズームレバー】を（望遠）／側にスライドさせて、ズームの倍率を変えます。
- 【ズームレバー】を操作して光学ズームが最も望遠になると、いったんズーム動作は停止します。その後、【ズームレバー】を（望遠）／側にスライドさせ続けると、デジタルズームに切り替わります。

デジタルズーム表示



ズームバー

- 【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。



6. 【シャッター】を押して撮影します。

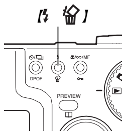
重要！
- 【液晶モニター】の表示を消している場合は、デジタルズームを使って撮影することはできません（18ページ）。

フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

1. 撮影モードにします。

2. 【⚡ 】を押してフラッシュの発光方法を選びます。
- 【⚡ 】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。



フラッシュモード表示



表示なし（自動発光）	露出に合わせて自動的に発光します。
（発光禁止）	露出に関係なく発光しません。
⚡（強制発光）	露出に関係なく強制的に発光します。
（赤目軽減）	フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. 撮影します。

重要！
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光（露出情報を得るための予備発光）し、最後にメイン発光（フラッシュ撮影するための発光）することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
赤の【動作確認用ランプ】が点滅中に【シャッター】を押しても、撮影できない場合があります。

■赤目軽減機能について

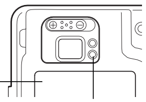
夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光（写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュとAF補助光が発光）することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

※ 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人が【フラッシュ】または【AF補助光】を注視していないと効果がありません。撮影する前に【フラッシュ】または【AF補助光】を見るように声をかけておいてください。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や赤の【動作確認用ランプ】で確認できます。



【液晶モニター】
- フラッシュ発光時は⚡が表示されます。

赤の【動作確認用ランプ】
点滅：フラッシュ充電中
点灯：フラッシュ充電完了

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押します。

2. 【<】【>】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【∧】【∨】で"フラッシュ光量"を選び、【>】を押します。

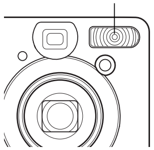
4. 設定内容を選び、【SET】を押します。

強　：強く光ります。
標準：標準です。
弱　：弱く光ります。

- 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ使用時のご注意

【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。



- フラッシュによる撮影距離は下記の通りです。この範囲外の被写体に対しては適切な効果が得られません。
  約0.4m〜約2.8m
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件（電池の状態や温度等）により異なります。
  数秒〜10秒程度（フル充電の場合）
- ムービーモード、連続撮影モードの場合は、フラッシュは発光しません。このとき（発光禁止）が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき（発光禁止）が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに電池を充電してください。
- （赤目軽減）では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、ホワイトバランスが固定されるため、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する（トリプルセルフタイマー）こともできます。

1. 撮影モードにして【⏲/ DPOF】を押して時間を選びます。

- 【⏲/ DPOF】を押すたびに【液晶モニター】に次の順で時間が表示され、切り替わります。

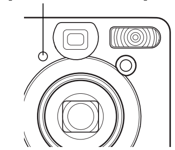
時間



表示なし：セルフタイマーは使用できません。
10s：10秒後に撮影されます。
2s：2秒後に撮影されます。
x3：10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます（トリプルセルフタイマー）。
：セルフタイマーは使用できません。連続撮影モードになります（49ページ）。

2. 撮影します。

- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。



参考
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ぶれ防止になります。
- 連続撮影ではセルフタイマーは使用できません（49ページ）。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると"1 sec"と表示され、約1秒後に撮影されます。
  撮影準備完了までの時間は、画像の"サイズ"や"画質"と使用するメモリーによって異なります。

画像サイズと画質を変える

本機は撮影する内容に応じて、画像サイズと画質の切り替えができます。

画像サイズを変更する

1. 撮影モードにして【MENU】を押します。

2. 【<】【>】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【∧】【∨】で"サイズ"を選び、【>】を押します。

4. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

2304×1712：2304×1712pixelsで記録します。
2240×1680：2240×1680pixelsで記録します。
1600×1200：1600×1200pixelsで記録します。
1280× 960：1280×960pixelsで記録します。
640× 480：640×480pixelsで記録します。

参考
- 大きくプリントするなど、画質を優先したい場合は"2304×1712"などのpixels数が大きな画像を選び、メールで画像データを送ったり多くの画像を撮影するなど、容量を小さくしたい場合は"640×480"を選んでください。

画質を変更する

1. 撮影モードにして【MENU】を押します。

2. 【<】【>】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【∧】【∨】で"画質"を選び、【>】を押します。

4. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

高精細　：高画質で記録します。
標準　　：標準の画質で記録します。
エコノミー：低画質で記録します。

参考
- 画質が"高精細"→"標準"→"エコノミー"となるに従って、画像容量は小さくなります。画質を優先するときは"高精細"を、撮影枚数を優先するときは"エコノミー"を選んでください。

重要!
- 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります（16、114ページ）。

撮影する（応用編）

本機はさまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

ピント合わせの方法を変える

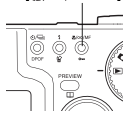
ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアルフォーカスの4種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. 撮影モードにします。

2. 【🌷/∞/MF 🔑】を押します。

- 押すごとにフォーカスモードが切り替わります。

【🌷/∞/MF 🔑】



→表示なし（オートフォーカス）
↓
🌷（マクロ）
↓
∞（無限遠）
↓
MF（マニュアルフォーカス）

フォーカスモード



自動でピントを合わせる（オートフォーカス）

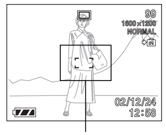
オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲：約40cm〜∞

1. 【🌷/∞/MF 🔑】を何回か押してフォーカスモード表示を消します。

2. ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。

- 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。



【フォーカスフレーム】

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

近くを撮影する（マクロ）

マクロでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのものを撮影（接写）するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

約14cm〜50cm

1. 【🌷/∞/MF 🔑】を何回か押して“🌷”を表示させます。

2. 撮影します。

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

重要! • マクロでは光学ズームは使用できません。最も広角側に固定されます。

遠くを撮影する（無限遠）

無限遠では∞（無限遠）にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. 【🌷/∞/MF 🔑】を何回か押して“∞”を表示させます。

2. 撮影します。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約14cm〜∞
3倍	約40cm〜∞

1. 【🌷/∞/MF 🔑】を何回か押して“MF”を表示させます。

- 手順2で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。


枠

2. 【液晶モニター】で確認しながら、【∧】【∨】によりピントを合わせます。

【∧】：遠い側にピントを合わせる
【∨】：近い側にピントを合わせる

- 【液晶モニター】にはマニュアルフォーカスの位置が表示され、おおよそのピントの位置が確認できます。
- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。


【マニュアルフォーカス位置】

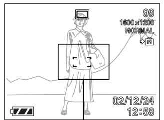
3. 【シャッター】を押して撮影します。

フォーカスロック

撮影したい構図で【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード（🌷）で使用できます。

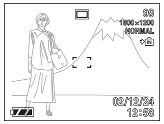
1. ピントを合わせたい被写体を【液晶モニター】で見ながら、【シャッター】を半押しします。

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。



【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。



3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 • フォーカスロックと同時に露出もロックされます。

露出を補正する（EVシフト）

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値（EV値）を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：−2.0EV〜+2.0EV
補正単位　：1/3EV

1. 撮影モードで【<】【>】を押して露出補正します。

- 【液晶モニター】に露出補正値が表示されます。

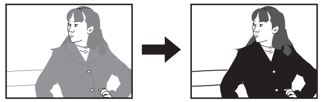


露出補正表示

【>】：＋方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。



【<】：−方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。



- 露出補正値をリセットするときは、反対方向に露出補正して“0”に合わせてください。

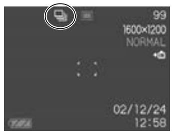
2. 撮影します。

重要! • 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

連続撮影する(連続撮影モード)

【シャッター】を押し続けることで、連続撮影ができます。ただし、連続撮影のスピードは撮影画質によって異なります。

1. **【⏲/⧉ DPOF】を何回か押して、連続撮影モードにします(41ページ)。**
- ⧉が表示されます。



2. **【シャッター】を押し続けて撮影します。**

重要!
- 連続撮影では、フラッシュは発光しません。
- 連続撮影では、セルフタイマーは使用できません。
- メモリーカードに記録中は、電池・ACアダプター、およびメモリーカードを抜かないでください。

二人で記念撮影をする(カップリングショット)

一画面を2つに分けて2回撮影し、その後自動合成して1枚の画像にするモードです。他の人に撮影を頼むことができないときでも、全員揃って記念撮影できます。

- 最初の撮影
撮影者以外を撮影する。



- 最終的な撮影
背景の重なり具合を確認しながら撮影者のみを撮影する。



- 合成



1. **【モードダイヤル】を“👥”に合わせます。**

2. **最初に【液晶モニター】で【フォーカスフレーム】を左側部分の被写体に合わせて撮影します。**
- この撮影で下記の情報が固定されます。
フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ



【フォーカスフレーム】

3. **次に、【液晶モニター】上で半透明で表示されている左側部分と、現在の背景を正しく重なるようにフレームを合わせ、右側部分を撮影します。**
- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作2に戻ることができます。



半透明の画像

参考
- ベストショットモードの中にもカップリングショットができるシーンが3種類入っています。1つはこのカップリングショットと同じものです。残りの2つは、最初に撮影する部分が、左側1/3のものと、右側1/3のものです。撮影する人数などによって使い分けができます。ただし、ベストショットモードにあるカップリングショットのシーンをカップリングショットモードで使用することはできません。

好みの構図で記念撮影をする(プリショット)

プリショット機能は人に撮影を依頼するときに便利な機能です。この機能では一度の撮影で2回の撮影を行います。1回目の撮影で撮影画像を半透明の状態で【液晶モニター】上に表示し、2回目では表示されている半透明の画像を目安に最終的な撮影を行います。2回目に撮影した画像が記録されます。この機能はベストショットモード(52ページ)の中にあります。

- 目安として表示したい風景を撮影



- 目安として表示されている画像に合わせて他の人に撮影してもらう



- 2回目のみの画像が記録される



1. **【モードダイヤル】を“BS”に合わせます。**

2. **【<】【>】で“プリショット”のシーンを選び、【SET】を押します。**



3. **最初に仮撮影を行います。**
- この操作で撮影した画像は操作4で半透明で表示されますが、最終的にはカメラに保存されません。
- この撮影で下記の情報が固定されます。
フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

4. **次に、【液晶モニター】上で半透明で表示されている背景と、現在の背景を正しく重なるようにフレームを合わせて撮影します。**
- この操作で撮影した画像がカメラに保存されます。
- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。



半透明の画像

さまざまなシーンを選んで撮影する(ベストショットモード)

33種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

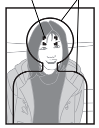
■シーンのサンプル画像例



■フレームについて

選んだシーンによっては【液晶モニター】に【フレーム】が表示されます。フレームに被写体を合わせることでバランスのよい構図で撮影することができます。【フォーカスフレーム】もシーンに合った位置に表示されます。

【フォーカスフレーム】
【フレーム】



例:バストアップを写します

1. **【モードダイヤル】を“BS”に合わせます。**
- ベストショットモードになり、シーンのサンプル画像が表示されます。



2. **【<】【>】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。**

3. **撮影します。**

重要!
- No.5〜7のシーンについては「カップリングショット」(49ページ)、No.8のシーンについては「プリショット」(51ページ)をご覧ください。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- シーンを選んだ後から【SET】を押すことにより、シーンを選び直すことができます。

撮影したいシーンを登録する（カスタム登録）

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに読み込んで、呼び出すことができます。呼び出した画像の設定内容と同じ設定で撮影することができます。

1. 【モードダイヤル】を“BS”に合わせます。
- シーンのサンプル画像が表示されます。

2. 【<】【>】を押して“好きな画像を登録します”を表示させます。



3. 【SET】を押します。

4. 【<】【>】を押して読み込む画像を選びます。



5. 【∧】【∨】で“登録”を選び、【SET】を押します。
- 登録が完了します。
- 撮影できる状態になります。以降、52ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。



重要!
- デジタルカメラでは、本機内蔵のシーンのあとに「カスタム登録したシーン」の順番でシーンが登録されます。
- 内蔵メモリーをフォーマット（84ページ）すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいますので、その場合は必要に応じてカスタム登録し直してください。

参考
- 登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、フィルター、測光方式、ホワイトバランス、色強調、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト、フラッシュモード、ISO感度、マニュアル撮影時の絞り値とシャッター速度
- 本機で撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録可能件数は最大999件となります。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンのファイル名は「UQVR4nnn.jpe（n＝0〜9）」となります。
- カスタム登録したシーンを消去したい場合は、ベストショットモードでシーンを選ぶときに、カスタム登録したシーンを表示させ、【⚡ 🗑】を押して削除するか、パソコンを使って内蔵メモリー内の「Scene」フォルダ内から消去したいシーンのファイルを削除してください（98ページ）。

夜景を撮る（夜景モード）

長時間露光をすることにより、夜景を美しく撮影することができます。

1. 【モードダイヤル】を“★)”に合わせます。

2. 撮影します。

参考
- 夕暮れや夜景などを背景に人物を撮影する場合などに夜景モードとフラッシュを組み合わせることで、背景と人物をきれいに撮影することができます（スローシンクロ撮影）。

重要!
- 夜景モードではシャッター速度が遅くなるので、必ず三脚を使用し、本機を固定してください。
- 暗い所ではピントが合いづらいことがあります。そのときはマニュアルフォーカス（46ページ）をお使いください。また、動きの速い被写体ではぶれる場合があります。
- シャッター速度が遅くなるため、画面に表示される画像と実際に記録される画像が一致しないことがあります。

マニュアル露出で撮る

マニュアル露出モードではシャッター速度、絞り値を自由に設定して撮影することができます。

- 設定できるシャッター速度

シャッター速度	遅い ←→ 速い
	2秒 ←→ 1/1000秒（絞りF2.6時）
	2秒 ←→ 1/2000秒（絞りF5.0時）
明るさ	明るい ←→ 暗い
動き	流れる ←→ 止まる

- 設定できる絞り

絞り値	開ける ←→ 絞る
	F2.6・F5.0（ワイド端時）※
明るさ	明るい ←→ 暗い
ピント	浅い ←→ 深い

※実際の絞り値は光学ズーム位置によって下記のように変化します。

ズーム	（広角）←→（望遠）
開放側	F2.6/3.0/3.4/3.8/4.2/4.6/4.8
絞り側	F5.0/5.8/6.5/7.3/8.0/8.7/9.2

1. 【モードダイヤル】を“M”（マニュアル露出）に合わせます。

2. 【<】【>】でシャッター速度を指定し、【∧】【∨】で絞り値を指定します。

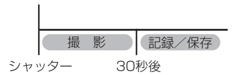


3. 【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- 露出がオーバーまたはアンダーの場合には、【シャッター】半押し時に【液晶モニター】にシャッター速度と絞り値がオレンジ色で表示されます。
- 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときはシャッター速度を適正な値に変更してください。
- CCDの特性上、シャッター速度が遅くなると撮影した画像にノイズが発生します。
- シャッター速度を1/8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なります。

動画を撮影する（ムービーモード）

一度に最大30秒まで動画を撮影することができます。



●ファイル形式：AVI形式
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。

●画像サイズ：320×240pixels

●動画ファイルサイズ：約200KB/秒

●撮影可能なムービーの時間：
- 一度に撮影可能な最長時間：30秒
- 撮影可能なトータル時間：
  内蔵メモリーで最長約60秒、64MBのSDメモリーカードで最長約5分30秒

1. 【モードダイヤル】を“🎞”に合わせます。
- 「残りセット数」は、30秒の動画をあと何回撮影できるかを示しています。



2. 撮影する被写体にカメラを向け、【シャッター】を押します。
- 30秒間、動画撮影が続きます。
- 動画撮影中は【液晶モニター】に“残り撮影時間”を表示します。
- 動画撮影を30秒以内で終了させたいときは、もう一度【シャッター】を押してください。

3. 動画撮影が終了後、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。
- 動画ファイルの保存を中止したいときは、保存中に【⚡ 🗑】を押し、【∧】【∨】で“消去”を選び、【SET】を押してください。

重要!
- フラッシュは発光しません。

決まったときに撮る(インターバルモード)

撮影枚数、繰返間隔、開始時間の設定を組み合わせることで、下記のような撮影ができます。

- 現時点から一定の間隔を繰り返し撮影する(インターバル撮影)
- 設定した時間に1枚撮影する(タイマー撮影)
- 設定した時間から一定間隔で撮影する(インターバルタイマー撮影)

1. 【モードダイヤル】を“◷”に合わせます。

2. 【<】【>】で“枚数”を設定して【∨】を押します。
- 撮影する枚数を設定します。1枚に設定した場合は手順4に進みます。
- メモリーの容量いっぱいに撮影したい場合は、“MAX枚”を選びます。

3. 【<】【>】で“間隔”を設定して【∨】を押します。
- 撮影を繰り返す間隔を設定します。1分〜60分まで1分単位で設定できます。

4. 【<】【>】で“開始時間”を設定して【SET】を押します。
- 撮影を始める時間を設定します。開始時間は現在から1〜240分後です。
- 今現在から撮影を開始したい場合は“今から”を選びます。

5. 必要に応じて撮影に関する設定を行います。
- ホワイトバランス等の設定ができます。

6. 被写体にフレームを合わせて【シャッター】を全押しします。
- 設定時間になると撮影が開始されます。
- 操作5で行った撮影に関する設定条件で、毎回撮影が行われます。

インターバルモードをキャンセルするには

インターバルモードでの撮影待機中に電源を入れると、「インターバル撮影がキャンセルされました」と表示され、インターバルモードの撮影はキャンセルされます。また、【モードダイヤル】が“◷”以外の位置になっても、インターバルモードの撮影はキャンセルされます。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【>】を押します。



3. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

オート	：自動的にホワイトバランスを調整します。
(太陽光)	：屋外での撮影時
(日陰)	：日陰で青みがかるとき
(電球)	：電球下で赤みがかるとき
(蛍光灯)	：蛍光灯下で緑がかるとき
マニュアル	：現在の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスの設定」(59ページ)を参照してください。

参考 • “マニュアル”を選ぶと、前回マニュアルホワイトバランスを設定した際の値に設定されます。

マニュアルホワイトバランスの設定

ホワイトバランスの“オート”では光源によって自動調整の処理に時間がかかったり、調整できる範囲(色温度)に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行ってください。

1. 「ホワイトバランスを変える」(58ページ)の手順3で“マニュアル”を選びます。
- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。



2. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。
- ホワイトバランスを調整します。

3. 【SET】を押します。
- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。
- 暗い所や色の濃いものでホワイトバランスを調整すると時間がかかります。

測光方式を変える

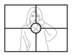
測光方式の変更ができます。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“測光方式”と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

マルチ(マルチパターン)：
画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。様々なシーンで失敗の少ない露出が得られます。



中央重点：
中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



スポット：
センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



重要! • “マルチ”設定時に、EVシフト(48ページ)を行うと測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。また、マニュアル露出(55ページ)に切り替えたときも同様に“マルチ”は“中央重点”に切り替わります。

ヒストグラムを活用する

【DISP】を押して【液晶モニター】上にヒストグラムを表示させることにより、露出をチェックしながら撮影することができます(18ページ)。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



ヒストグラム

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、EVシフト(露出補正)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。

- ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。
全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



- ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。
全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



- ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。
全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。



重要!
- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影やマルチ測光方式による撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- 連続撮影(49ページ)は、2枚目以降はヒストグラムは表示されません。
- カップリングショット撮影時(49ページ)は、ヒストグラムは表示されません。

各種撮影条件を設定する

撮影モードにおいて、下記の撮影条件を設定することができます。

- ISO感度
- 色強調
- 色彩効果(フィルター)
- 彩度
- コントラスト
- シャープネス
- グリッド表示のオン/オフ
- 各種設定の記憶(モードメモリ)

参考
- 上記以外に、次の撮影条件も変更できます。操作方法については各ページをご覧ください。
  - サイズ/画質(42ページ)
  - ホワイトバランス(58ページ)
  - 測光方式(59ページ)
  - フラッシュ光量(40ページ)
  - デジタルズーム(38ページ)

感度を変える

感度が変更できます。使用目的に応じて感度を設定してください。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"ISO 感度"と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

オート　:撮影条件により自動調整します。
ISO100 :ISO100相当
ISO200 :ISO200相当

重要!
- 感度を上げると画像のノイズが増加します。使用目的に応じて感度設定をしてください。

色を強調する

撮影時に特定の色を強調することができます。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"色強調"と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

切　:色の強調はしません。
赤強調　:赤色の成分が強調されます。
緑強調　:緑色の成分が強調されます。
青強調　:青色の成分が強調されます。
肌色強調:肌色の成分が強調されます。

参考
- 色強調機能を使うと、色強調用のレンズフィルター(エンハンサーフィルター)を装着して撮影したような画像になります。
- 色強調とフィルター(63ページ)が設定されている場合は、フィルターが優先され、色強調が無効になります。

色を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"フィルター"と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/ピンク/紫

参考
- フィルター機能を使うと、色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。
- 色強調(62ページ)とフィルターが設定されている場合はフィルターが優先され、色強調が無効になります。

彩度を変える

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"彩度"と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

色が淡く　低　:色の鮮やかさが低くなります。
↕　標準:標準の彩度になります。
色が濃く　高　:色の鮮やかさが高くなります。

コントラストを変える

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"コントラスト"と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

平坦　低　:明暗が平坦になります。
↕　標準:標準のコントラストになります。
クッキリ　高　:明暗がクッキリします。

シャープネスを変える

撮影される画像の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードで【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"シャープネス"と選び、【>】を押します。

3. 設定内容を選び【SET】を押します。

柔らかく　ソフト:鮮鋭度が低くなります。
↕　標準　:標準の鮮鋭度になります。
クッキリ　ハード:鮮鋭度が高くなります。

グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。



1. **撮影モードで【MENU】を押します。**

2. **“撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【>】を押します。**

3. **設定内容を選び【SET】を押します。**
入：グリッドを表示します。
切：グリッドは表示しません。

各種設定を記憶させる（モードメモリ）

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入／切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能

フラッシュ、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、デジタルズーム、MF位置

1. **撮影モードで【MENU】を押します。**

2. **“モードメモリ”タブを選び、【∨】を押します。**

3. **設定したい項目を選び【SET】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET】を押します。**
入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切：電源を切ったときに初期値に戻ります。

5. **【MENU】を押して設定を終了します。**

機能	入	切
フラッシュ	最後のモード	オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO 感度		オート
測光方式		マルチ
フラッシュ光量		標準
デジタルズーム		入
MF位置		MFに切り替える前の位置

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」（105ページ）をご覧ください。

1. **撮影モードまたは再生モードで【MENU】を押します。**

2. **“設定”タブ→“リセット”を選び【>】を押します。**

3. **“リセット”を選び【SET】を押します。**
• リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

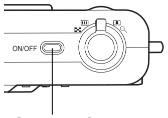
再生する

本機は【液晶モニター】を備えていますので、記録されているファイルを本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

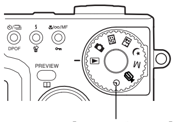
記録されているファイルを順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1. **【電源ボタン】を押して、電源を入れます。**
• 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。



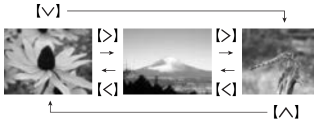
【電源ボタン】

2. **【モードダイヤル】を“▶”に合わせます。**
• 再生モードになり、再生できる状態になります。



【モードダイヤル】

3. **【<】【>】【∧】【∨】で画像を見ていきます。**



【>】：進みます。
【<】：戻ります。
【∧】：先頭の画像を表示します。
【∨】：最後尾の画像を表示します。

参考 • 【<】【>】を押し続けると、ファイルは早送りされます。
• このカメラで撮影されたファイルは、簡易画像で表示されます。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を4倍まで拡大して表示させることができます。

1. **再生モードにして、【<】【>】で拡大したい画像を表示させます。**

2. **ズームレバーを“🔍”にスライドさせて拡大します。**
• 【液晶モニター】に現在の倍率が表示されます。



拡大倍率

3. **【∧】【∨】【<】【>】で拡大した画像を上下左右にスクロールすることができます。**



4. **【DISP】以外のボタンを押すと、画像は元の大きさに戻ります。**

重要！ • 動画は拡大表示できません。

画像サイズを変える（リサイズ）

撮影した静止画像のサイズを、次の2種類のサイズに変えることができます。

1280×960pixelsのSXGAサイズ
640×480pixelsのVGAサイズ

1. **再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【>】を押します。**



3. **【<】【>】でサイズを変えたい画像を表示させます。**

4. **【∧】【∨】でリサイズ内容を選び、【SET】を押します。**
1280×960：1280×960pixelsのSXGAサイズに変えます。
640×480：640×480pixelsのVGAサイズに変えます。
キャンセル：リサイズを中止します。

重要!
- リサイズした画像は、リサイズする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 画像サイズが640×480pixels以下の画像はリサイズできません。
- このカメラで撮影した画像以外の画像は、リサイズできません。
- “このファイルではこの機能は使用できません”と表示された場合は、リサイズできません。
- リサイズした画像を保存できるメモリー容量が残っていない場合は、リサイズできません。

画像の一部を切り抜く（トリミング）

拡大した画像から必要な箇所を切り抜いて、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像などの構図を整えることができます。

1. 再生モードにして、【<】【>】でサイズを変えたい画像を表示させます。

2. 【MENU】を押します。

3. “再生機能”タブ→“トリミング”と選び、【>】を押します。



4. 画面に枠が表示され、【ズームレバー】を“🔍”にスライドさせると、枠が縮小します。
- 表示されている画像のサイズによって、トリミングできる枠の大きさが変わります。

5. 【∧】【∨】【<】【>】で切り抜きたい部分を枠で囲みます。

6. 【SET】を押します。
- トリミングを中止する場合は【MENU】を押します。

重要!
- トリミングした画像は最新ファイルとして保存されます。
- トリミングしても、トリミングする前の画像は残っています。
- ムービーモードで撮影した画像はトリミングできません。
- “このファイルではこの機能は使用できません”と表示された場合は、トリミングできません。
- トリミングした画像を保存できるメモリー容量が残っていない場合は、トリミングできません。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. 再生モードにして、【<】【>】で再生したい動画を表示させます。



2. 【SET】を押します。
- 動画が再生されます。
- 動画再生中に、次のような操作ができます。

早戻し／早送りする .... 【<】【>】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える .... 【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする .... 【<】【>】を押す
再生を中断する .... 【MENU】を押す

重要!
- 動画の再生は1回のみとなります。繰り返し再生は行いません。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. 再生モードにします。

2. 【ズームレバー】を“▦”にスライドさせます。
- 9つの画像が表示され、最初に表示されていた画像は、枠が付いた状態で中央に表示されます。
- 【<】または【>】を押して、枠が画面の左端、または右端まで行くと、次の9枚を表示します。

例：画像の総数が20枚で、1番目の画像を最初に表示していた場合

17	18	19	→	6	7	8	→	15	16	17
20	1	2	←	9	10	11	←	18	19	20
3	4	5		12	13	14		1	2	3

- 画像の総数が9枚以下の場合は、左上から順に画像が表示されます。枠は1枚目の画像に付きます。

3. 【∧】【∨】【<】【>】で画像を見て行きます。

4. 【∧】【∨】【<】【>】以外のボタンを押すと9画面表示は終了します。

目当ての画像を素早く表示する

1. 9画面表示に切り替えます。

2. 【∧】【∨】【<】【>】で目当ての画像に枠を移動します。



3. 【∧】【∨】【<】【>】以外のボタンを押します。
- 目当ての画像が1枚で表示されます。



消去する

ファイルを消去する方法には次の2つの方法があります。

1ファイル ：ファイルを1ファイルずつ消去する。
全ファイル：すべてのファイルを消去する。

重要!
- 一度消去してしまった記録内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要なファイルかどうかをよく確かめてから行ってください。特に全ファイル消去の操作では、記録したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- すべてのファイルがメモリープロテクト（75ページ）されている状態では、消去は実行できません。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。メモリープロテクトを解除してから操作してください（75ページ）。

1ファイルずつ消去する

表示されているファイルを1ファイルずつ消去することができます。

1. 再生モードにして【ϟ 🗑】を押します。



2. 【<】【>】で消去したいファイルを表示させます。

3. 【∧】【∨】で“消去”を選びます。
- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

4. 【SET】を押して、表示しているファイルを消去します。
- 手順2～4を繰り返して、他のファイルを消去することができます。

5. 【MENU】を押して、消去操作を終了します。

重要!
- 消去できないファイルを消去しようとすると、“このファイルではこの機能は使用できません”と表示されます。

全ファイルを消去する

すべてのファイルを消去することができます。

1. 再生モードにして【ϟ/🗑】を押します。

2.【∧】【∨】で"全ファイル消去"を選び【SET】を押します。

3.【∧】【∨】で"はい"を選びます。

- 消去を中止したいときは、"いいえ"を選んでください。

4.【SET】を押して、すべてのファイルを消去します。

ファイルの管理について

本機では画像の撮影や再生の他、画像プリント時の枚数指定等やファイルの消去防止の設定ができます。

フォルダの分類について

本機は内蔵フラッシュメモリーやメモリーカード内に、フォルダ(ディレクトリ)を自動的に作成します。

メモリー内のフォルダ/ファイルについて

記録したファイルは連番を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：連番100のフォルダ名

100CASIO
連番(3桁)

各フォルダには最大9,999個のファイルが登録できます。10,000枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。画像のファイル名は次の通りです。

例：26番目に撮影した画像のファイル名

CIMG0026.JPG
連番(4桁)　拡張子

- 保存できるフォルダ数、ファイル数は画質やメモリーカードの容量によって異なります。
- 詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリー内のディレクトリ構造」(98ページ)をご覧ください。

記録したファイルにメモリープロテクト(消去防止)をかける

大事なファイルを誤って消去してしまうことを防止する機能(メモリープロテクト)がついています。メモリープロテクトをかけたファイルは、消去操作(72ページ)により消去することはできません。メモリープロテクトのかけかたには、1ファイル単位、全ファイルの2通りがあります。

1ファイル単位でメモリープロテクトをかける

1. 再生モードにして【🌷/∞/MF 🔑】を押します。

2.【<】【>】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させます。

3.【∧】【∨】で"オン"または"オフ"を選びます。

- メモリープロテクトを解除するときは、"オフ"を選んでください。

4.【SET】を押します。

- "オン"を選ぶとメモリープロテクトがかかり、"🔑"がファイル上に表示されます。



5.【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

全ファイルにメモリープロテクトをかける

1. 再生モードにして【🌷/∞/MF 🔑】を押します。

2.【∧】【∨】で"全ファイル　オン"を選び、【SET】を押します。

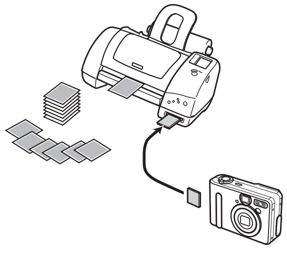
- メモリープロテクトを解除するときは、"全ファイル　オフ"を選んでください。
- "全ファイル　オン"を選ぶとメモリープロテクトがかかり、"🔑"が全てのファイル上に表示されます。

3.【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

DPOF機能について

DPOF(Digital Print Order Format)とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。DPOF対応の家庭用プリンターやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
  画像/枚数/日付



1画像単位で印刷設定を行う

1. 再生モードにして【⏲/▭ DPOF】を押します。



2.【∧】【∨】で"選択画像"を選び、【SET】を押します。

3.【<】【>】で印刷したい画像を表示させます。



4.【∧】【∨】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は"00"にしてください。

5. 日付を印刷したい場合は【DISP】を押して を表示させます。

- 日付が不要なときは、【DISP】を押して を消してください。
- 他の画像を印刷する場合は、操作3～5をくり返してください。

6. 【SET】を押します。

全画像に印刷設定を行う

1. 再生モードにして【 / DPOF】を押します。

2. 【∧】【∨】で"全画像"を選び、【SET】を押します。



3. 【∧】【∨】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は"00"にしてください。

4. 日付を印刷したい場合は【DISP】を押して を表示させます。

- 日付が不要なときは、【DISP】を押して を消してください。

5. 【SET】を押します。

PRINT Image Matchingについて

本製品はPRINT Image MatchingⅡに対応しています。PRINT Image MatchingⅡ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image MatchingおよびPRINT Image MatchingⅡに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

Exif Printについて

Exif Print (Exif2.2) は、対応プリンタをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

重要! • 対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、各プリンタメーカーへお問い合わせください。

その他の設定について

ファイルの連番のカウント方法を切り替える

撮影時にファイル(画像データ)に付く連番(74ページ)のカウント方法を切り替えることができます。

1. 撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"ファイルNo."と選び、【>】を押します。

3. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

メモリする：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、メモリーカードを交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

メモリしない：ファイルの連番は記憶せずに、最大の連番＋1からファイル名を付けます。

重要! • 「メモリする」では、設定した時点でカメラにある画像ファイルのファイル番号を記憶し、続いて連番を付けていきます。このとき、メモリー内に画像が無い場合、連番は0001番からになります。したがって、全画像を消去したり、他のメモリーカードに入れ替えたり、内蔵メモリーに切り替えて、画像が無い状態で、再度「メモリする」に設定すると連番は0001番からになります。また、「メモリする」に設定した後、メモリーを切り替えて、そのメモリー内の画像ファイルのファイル番号が、記憶した番号より大きい場合は、大きい方の番号を記憶します。

操作音のオン／オフを切り替える

操作音(BEEP音)のオン／オフを切り替えることができます。

1. 撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"操作音"と選び、【>】を押します。

3. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：操作音が鳴ります。

切：操作音は鳴りません。

起動画面のオン／オフを切り替える

撮影モードで電源を入れたときのみ、カメラが記録している画像を起動画面として、【液晶モニター】に約2秒間表示するかどうかを切り替えることができます。

1. 撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"起動画面"と選び、【>】を押します。

3. 【<】【>】で起動画面にしたい画像を選びます。

- 設定可能な画面は、静止画および、2秒以下、200KB以下のムービー画像です。

4. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：設定時に表示していた撮影画面を起動画面として表示します。

切：起動画面は表示しません。

重要! • 起動画像に設定した撮影画像(静止画／ムービー画像)は、起動画像メモリーに登録されます。このメモリーには、画像は一つしか登録できません。起動画面を別の撮影画像に変更すると、メモリー内の画像は上書きされてしまいますので、変更する前の撮影画像に戻すときは、変更する前の画像データが必要となります。また、起動画像に登録した撮影画像(静止画／ムービー画像)を、設定画面から消去することはできません。

アラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らし、同時に指定した画像を表示できます。最大3つの時刻を設定できます。

アラームを設定する

1. 再生モードにして【MENU】を押します。

2. "再生機能"タブ→"アラーム"と選び、【>】を押します。

3. 【∧】【∨】で設定したいアラームを選び、【SET】を押します。

4. 【<】【>】で項目を選び、【∧】【∨】で設定内容を選びます。

- 時刻、1回／毎日、オン／オフが設定できます。

5. 【DISP】を押します。

- ここで【SET】を押してもアラームの設定を終えることができます。

6. 【<】【>】で表示したい画像を選び、【SET】を押します。

7. 内容を確認して【SET】を押します。

- アラームの優先順は設定1、設定2、設定3です。

アラームを止める

アラームは電源をオフにした状態で、設定した時刻になると約1分間鳴り続けます。その後、電源オフの状態に戻ります。途中で止めたい場合は、何かボタンを押してください。

重要! • アラームは次の場合は鳴りません。
– 電源がオンになっている
– インターバル撮影が設定されている

日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、下記のように操作してください。この設定はホームタイム(自宅の日時)として設定されます。

1. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"日時設定"と選び、【>】を押します。**

3. **日付と時刻を合わせます。**
【∧】【∨】：カーソル(選択枠)の部分の数字などを変えます。
【<】【>】：カーソル(選択枠)を移動します。
【DISP】：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

4. **【SET】を押して、設定を終了します。**

日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3通りの中から選ぶことができます。

1. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"表示スタイル"と選び、【>】を押します。**

3. **【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。**
例) 2002年10月23日
年/月/日：02/10/23
日/月/年：23/10/02
月/日/年：10/23/02

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

ホームタイムとワールドタイムを切り替える

1. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"ワールドタイム"と選び、【>】を押します。**
• 現在設定されている内容が表示されます。

3. **【∧】【∨】で使用したい日時表示を選びます。**
自宅　：購入時に設定した自宅の日時を表示します。
訪問先：訪問先として設定した都市の日時を表示します。

4. **【SET】を押して、設定を終了します。**

ワールドタイムを設定する

1. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"ワールドタイム"と選び、【>】を押します。**
• 現在設定されている内容が表示されます。

3. **【∧】【∨】で"訪問先"を選び、【>】を押します。**
• 自宅の都市について設定する場合は、"自宅"を選びます。

4. **【∧】【∨】で"都市"を選び、【>】を押します。**

5. **【∧】【∨】【<】【>】で訪問先の地域を選び、【SET】を押します。**



6. **【∧】【∨】で訪問先の都市を選び、【SET】を押します。**
• 現在設定されている内容が表示されます。



7. **【SET】を押して、設定を終了します。**

サマータイムを設定する

1. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"ワールドタイム"と選び、【>】を押します。**
• 現在設定されている内容が表示されます。

3. **【∧】【∨】で"訪問先"を選び、【>】を押します。**
• 自宅の都市について設定する場合は、"自宅"を選びます。

4. **【∧】【∨】でサマータイムの設定を選び、【>】を押します。**
入：サマータイムになります。
切：通常の時刻になります。

5. **【SET】を押しします。**
• 現在設定されている内容が表示されます。

6. **【SET】を押して、設定を終了します。**

表示言語を切り替える

画面のメッセージを6つの言語の中から選ぶことができます。

1. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"Language"と選び、【>】を押します。**

3. **【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。**
日本語　：日本語
English　：英語
Français：フランス語
Deutsch ：ドイツ語
Español ：スペイン語
Italiano ：イタリア語

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要! • 内蔵メモリーをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
• ファイルデータにメモリープロテクト(75ページ)をかけていても、内蔵メモリーをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
• ベストショットモードでカスタム登録した内容についても消去されますのでご注意ください。起動画面に設定した画像は消去できません。

1. **本機にメモリーカードが入っていないことを確認します。**
• もしもメモリーカードが入っている場合は、取り出してください(86ページ)。

2. **撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。**

3. **"設定"タブ→"フォーマット"と選び、【>】を押します。**

4. **【∧】【∨】で"フォーマット"を選び、【SET】を押します。**
• フォーマットを実行しないときは、"キャンセル"を選んでください。

メモリーカードを使用する

本機は、市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)を使用することにより、記録用のメモリーを拡張することができます。また、内蔵のフラッシュメモリーからメモリーカードに、またはメモリーカードから内蔵フラッシュメモリーにファイルをコピーすることもできます。

- ファイルが記録されるメモリーは、次のように自動的に切り替わります。

メモリーカードを入れていないときは	→	内蔵メモリーに記録されます。
メモリーカードを入れているときは	→	メモリーカードに記録されます。

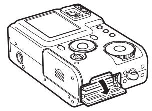
- メモリーカードを入れた状態では、内蔵メモリーに撮影した画像を記録できません。

重要!
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。
- メモリーカードを使う際はメモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。
- カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。

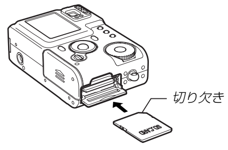
メモリーカードの使いかた

メモリーカードを入れる

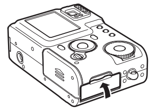
1. 【メモリーカードカバー】を開けます。



2. メモリーカードの切り欠きの向きを図のようにして、【メモリーカード挿入口】にしっかり押し込みます。



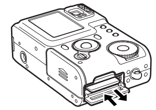
3. 【メモリーカードカバー】を閉めます。



メモリーカードを取り出す

1. 【メモリーカードカバー】を開けます。

2. メモリーカードを押すと、メモリーカードが少し出てきます。



3. メモリーカードを引き抜きます。

重要!
- 故障の原因となりますので、【メモリーカード挿入口】にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池・ACアダプターを抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- 緑の【動作確認用ランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する場合があります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- メモリーカードは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- ファイルデータにメモリープロテクト(75ページ)をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。

1. 本機にメモリーカードを入れます。

2. 電源を入れ、撮影モードまたは再生モードにして【MENU】を押します。

3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【>】を押します。

4. 【∧】【∨】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。
- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。

メモリーカードのご注意

- メモリーカードは必ずSDメモリーカードまたはMMC(マルチメディアカード)を使用してください。他のメモリーカードをお使いの場合は動作保障できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消滅または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(MOディスク、ハードディスクなど)にバックアップして控えをとることをお勧めします。
- 万一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマットの操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードを持たれることをお勧めします。ただし、メモリーカードをフォーマットすると、記録されているデータは全て消えてしまいます。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たにメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット(初期化)してお使いいただくことをお勧めいたします。
- フォーマットの操作を行うときは、ACアダプターを使用するか、充電式電池をフル充電状態にしてから行ってください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

ファイルをコピーする

内蔵フラッシュメモリーとメモリーカードの間で、ファイルをコピーすることができます。内蔵メモリーからメモリーカードへのコピーは全画像のコピーになります。メモリーカードから内蔵メモリーへのコピーは1枚ずつのコピーになります。

内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする

ファイルのコピーは、一括で行われます。

1. 本機にメモリーカードを入れます。

2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押します。

3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【>】を押します。



4. 【∧】【∨】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押します。
- コピーが始まり、“しばらくお待ち下さい”と表示されます。
- コピーが終わると、コピーしたフォルダの一番最後にあるファイルを表示します。

メモリーカードから内蔵メモリーにファイルをコピーする

1. 「内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする」の手順1～3と同じ操作を行います。

2. 【∧】【∨】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押します。

3. 【<】【>】でコピーしたいファイルを選びます。
- 選んだファイル名の画像が表示されます。

4. 【∧】【∨】で“コピー”を選び、【SET】を押します。
- コピーが始まり、“しばらくお待ち下さい”と表示されます。
- コピーが終わると、コピー前に表示していたファイルに戻ります。
- 手順3～4をくり返して、他の画像をコピーすることができます。

5. 【MENU】を押して、コピーの操作を終了します。

参考
- ファイルは内蔵メモリー内の一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

パソコンでファイルを活用する

USB端子を備えたパソコンとカメラをUSBケーブルを介して接続して、ファイルを活用することができます。また、メモリーカードを直接接続できるパソコンでも、ファイルを活用することができます。
ただし、カメラで記録したファイルをパソコンで取り扱う前に、付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアをインストールする必要があります。

ソフトをインストールする

付属のCD-ROMについて

付属のCD-ROMには、以下のソフトウェアが収録されています。

Photo Loader（Windows用／Macintosh用）

JPEG／AVI形式で保存された画像データを、デジタルカメラからパソコンに自動で取り込み、HTML形式のファイルで画像整理を行えるソフトです。

Photohands（Windows用）

画像データをレタッチしたり、印刷するためのソフトです。

USBドライバ（マスストレージ）（Windows用／Macintosh用）

デジタルカメラとパソコンをUSB接続するためのソフトです。

※ Windows XP、Mac OS 9/OS XではCD-ROM内のUSBドライバをインストールしないでください。USBケーブルでパソコンと接続するだけで、USB通信ができます。

Internet Explorer（Macintosh用）

HTMLファイルを読むためのブラウザソフトです。Photo Loaderで取り込んだ画像は、「ライブラリ」と呼ばれるフォルダに収められ管理されます。このソフトは、ライブラリ内の画像をパソコンのディスプレイ上で一覧表示するために使用します。また、デジタルカメラ本体のアルバム機能で保存した画像を、パソコンのディスプレイ上で表示するために使用します。

DirectX（Windows用）

デジタルカメラで撮影したムービーファイルを、Windows 98/2000で扱うためのコーディックが含まれる機能拡張ツールです。Windows XP/Meにはインストール不要です。

Acrobat Reader（Windows用／Macintosh用）

電子文書化されたPDFファイルを読むためのソフトです。CD-ROM内に収録されているPhoto Loader、Photohandsの取扱説明書を読むために使用します。

参考 • Photo Loader、Photohandsの操作方法に関する説明は、電子文書（PDFファイル）化され付属のCD-ROM内に収録されています。その取扱説明書をパソコンのディスプレイ上で表示する方法も本書に記載されていますので、「取扱説明書（PDFファイル）を読む」（92、94ページ）をよくお読みください。

パソコンの動作環境について

使用するソフトによって、必要な動作環境が異なります。以下の手順に従って確認してください。

Windows

付属のCD-ROM内の「お読みください」ファイルを参照して、使用するソフトの動作環境を確認してください。

Macintosh

付属のCD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルをブラウザソフトでご覧ください。

インストールする

付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアを、パソコンにインストールします。

参考 • 既にパソコンにインストールしているソフトウェアは、新たにインストールする必要はありません。

Windows

■ 準備

パソコンを起動させ、CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れるとMENUが自動的に起動します。



参考 • パソコンの設定によっては自動的にMENUが始まらない場合があります。この場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開きMENU.exeをダブルクリックして起動させてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ずインストールするアプリケーションソフトの「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. MENUの「ソフトウェア」をクリックします。

2. インストールしたいアプリケーションソフトをクリックします。

3. 「お読みください」ボタンをクリックします。

■ ソフトのインストール

1. MENUの「ソフトウェア」をクリックします。

2. インストールしたいアプリケーションソフトをクリックします。

3. 「インストール」ボタンをクリックします。

4. 手順にしたがってインストールします。

重要! • Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」をご覧になり、手順をご確認願います。
手順通りにインストールしない場合、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。
• Windows XP以外では、USBドライバをインストールする前に、パソコンとカメラを接続しないでください。

■ 取扱説明書（PDFファイル）を読む

1. MENUの「取扱説明書」をクリックします。

2. お読みになりたいアプリケーションソフトをクリックします。

3. 「読む」ボタンをクリックします。

重要! • 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Acrobat Readerをインストールしてください。

■ 終了

1. MENUの「終了」をクリックします。
• MENUを終了します。

Macintosh

■「CD-ROMの使いかた」を読む

インストールする前に、必ず「CD-ROMの使いかた」をお読みください。もし読めない場合は、下記の手順で付属のInternet Explorerをインストールしてください。

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM内の「はじめに」ファイルを開きます。

3. 手順にしたがってInternet Explorerをインストールします。

■ ソフトのインストール

インストールする前に、インストールするアプリケーションソフトの「はじめにお読みください」を必ずお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。

3. 「ソフトウェアについて」をクリックします。

4. インストールするソフトウェア名をクリックし、インストール方法を確認します。

5. 手順にしたがってインストールします。

重要!
- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」ファイルをご覧になり、手順をご確認願います。手順通りにインストールしない場合、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。

■ 取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。

3. 「取扱説明書を読む」をクリックします。

4. 読みたいソフトウェア名をクリックし、取扱説明書を表示させます。

重要!
- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Acrobat Readerをインストールしてください。

記録ファイルをパソコンに取り込む

付属のCD-ROMに収録のソフト(USBドライバ・Photo Loader)を使用して、記録したファイルをデジタルデータの状態でパソコンに転送することができます。また、ソフト(Photo Loader・Photohands)を使用して、より高度な画像の管理・編集を行うこともできます。
- Photo Loader 、Photohandsの使いかたについてはPhoto Loader、Photohandsの取扱説明書(PDFファイル)をお読みください。

USB端子により接続して取り込む

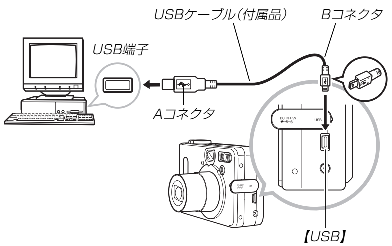
USB端子を備えたパソコンとカメラをUSBケーブルで接続するだけで、簡単にパソコンに画像データを転送することができます。
- 初めにUSBドライバをパソコンにインストールしてください。USBケーブルを介してパソコンと本機を接続するだけで、パソコン上の外部記憶装置(カードリーダー／ライター)として認識されるようになります。
- 内蔵フラッシュメモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBケーブルを接続してください。

参考
- Windows XP、Mac OS 9/OS XではCD-ROM内のUSBドライバをインストールしないでください。USBケーブルでパソコンと接続するだけで、USB通信ができます。

■ USB接続のしかた

1. カメラとパソコンの電源を入れます。

2. 【端子カバー】を開け、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。



3. パソコンで画像の取り込みを行います。

4. 取り込みが終了したら、USBケーブルをはずします。
- 詳しいはずしかたは「USB接続のはずしかた」をご覧ください。

重要!
- 接続する際は接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。
- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはお止めください。残像現象(画面焼け)をおこす場合があります。
- USBケーブルをカメラに接続するときは、本機のUSB接続端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと、正常に動作しません。
- USBケーブルからはカメラに電源は供給されません。必ずカメラにACアダプターを接続して、カメラに電源を供給してください。
- 別売のUSBケーブル(QC-1U)は使用できません。
- 通信中にケーブルを抜かないでください。データが破壊される恐れがあります。
- 撮影モード、再生モードのどちらでもUSBでの通信ができます。

■ USB接続のはずしかた

●WindowsMe/98/XPの場合

カメラの【電源ボタン】を押して、緑の【動作確認用ランプ】が消灯したのを確認してから、カメラを取りはずします。

●Windows2000の場合

パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、カメラを取りはずし、カメラの電源を切ります。

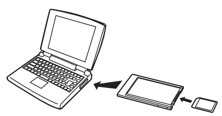
●Macintoshの場合

ファインダー上のカメラのドライブをゴミ箱に捨ててから、USBケーブルをデジタルカメラからはずし、カメラの電源を切ります。

メモリーカードを直接接続して取り込む

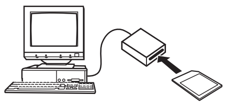
パソコンとのファイルのやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- SDメモリーカードスロットのある機種
  SDメモリーカードを直接差し込みます。
- PCカードスロットのある機種
  市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)を使用します。具体的な使用方法はPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)とパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

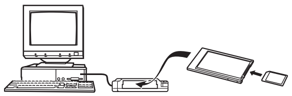


• 前記以外の機種

1) 市販のSDメモリーカード用リーダー／ライターを使用します。具体的な使用方法はSDメモリーカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。



2) 市販のPCカード用リーダー／ライターと市販のPCカードアダプター（SDメモリーカード／MMC用）を使用します。具体的な使用方法はPCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプター（SDメモリーカード／MMC用）に付属の取扱説明書を参照ください。



メモリーカード内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーに保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

■ DCF規格について

DCF規格対応の機器（デジタルカメラやプリンターなど）の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のディレクトリ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

メモリー内のディレクトリ構造

■ ディレクトリ構造

```
<¥DCIM¥>                    (親フォルダ)
 ├─□ 100CASIO               (記録フォルダ)
 │     CIMG0001.JPG         (画像ファイル)
 │     CIMG0002.AVI         (ムービーファイル)
 │       ⋮
 │  □ 101CASIO              (記録フォルダ)
 ├─□ 102CASIO               (記録フォルダ)
 │       ⋮
 ├─□ ALBUM                  (アルバムフォルダ)
 │     INDEX.HTM            (アルバムのHTMLファイル)
 ├─      ⋮
 │
<¥MISC¥>                    (DPOFファイルを収めたフォルダ)
 └── AUTPRINT.MRK           (DPOFファイル)

<¥SCENE¥> ※                 (ベストショット用フォルダ)
 ├── UQVR4001.JPE           (カスタム登録されたシーンファイル)
 ├── UQVR4002.JPE           (カスタム登録されたシーンファイル)
 │       ⋮
```

※ <¥SCENE¥>は内蔵メモリーにのみ作られます。

■ フォルダ／ファイルの内容

• 親フォルダ
デジタルカメラで扱うファイル全てを収めたフォルダです。

• 記録フォルダ
デジタルカメラで記録したファイルを収めたフォルダです。

• 画像ファイル
デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。

• ムービーファイル
デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。

• アルバムフォルダ
アルバム機能で使用するファイルを収めたフォルダです。

• アルバムのHTMLファイル
アルバム機能で使用するファイルです。

• DPOFファイルを収めたフォルダ
DPOFファイルなどを収めたフォルダです。

• ベストショット用フォルダ（内蔵メモリーのみ）
カスタム登録されたシーンファイルを収めたフォルダです。

• カスタム登録されたシーンファイル（内蔵メモリーのみ）
ベストショットモードで使用されるファイルです。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

• QV-R4で撮影した画像ファイル
• DCF規格に対応している画像ファイル

※ DCF規格の機能で使用できない画像ファイルもあります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときの注意点

• メモリーの内容をパソコンのハードディスクやMOディスクなどに保存する際は"DCIM"フォルダごと保存してください。その際"DCIM"フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で"DCIM"に戻してからご使用ください。本機では"DCIM"以外の名前のフォルダは認識されません。"DCIM"フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
• 一度パソコンのハードディスクやMOディスクなどにファイルを保存したあとのメモリーは、中のファイルをすべて削除するか、デジタルカメラでフォーマットしてからご使用になることをおすすめします。なお、メモリーをフォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去されますので、フォーマットする際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。

アルバム機能

アルバム機能とは、本機で撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、ホームページ上で一覧表示したり、印刷することができる機能です。

• 本機で作成したアルバムは、次のWebブラウザで見たり、印刷することができます。ただし、Windows 2000／98で動画を再生する場合はDirect Xが必要です。

Microsoft Internet Explorer Ver 5.5以上

アルバムを作成する

1. 再生モードにして【□】を押します。



レイアウト見本

2. 【∧】【∨】で"作成"を選び、【SET】を押します。
• アルバムの作成を開始し、"処理中です　しばらくお待ちください"と表示します。
• アルバムの作成が終了すると、【□】を押す前の画面に戻ります。
• アルバムを作成すると、内蔵メモリーまたはメモリーカード内の"ALBUM"フォルダの中に"INDEX.HTM"ファイル、その他アルバム用のファイルが作成されます。

重要!
• アルバム作成中に次の操作を行うと、アルバム用のファイルが作成されないばかりでなく、画像データ等のメモリー内のデータが破壊される恐れがあります。アルバム作成中は、下記の操作は絶対に行わないでください。
－【電池カバー】を開ける
－メモリーカードを抜く
－その他異常操作
• アルバム作成中にメモリーが一杯になったときは、"メモリがいっぱいです"と表示した後、アルバムの作成を中止します。
• 電池が切れかかっているときは、アルバムが正常に作成されない場合があります。
• アルバムの詳細設定で"自動作成"をする／しないのどちらに設定していても、【SET】を押すと、アルバムの作成を自動的に開始します（102ページ）。

アルバムのレイアウトを選ぶ

10種類のレイアウトの中から、表示したときのレイアウトを選ぶことができます。

1. 再生モードにして【□】を押します。

2. 【∧】【∨】で"レイアウト"を選びます。

3. 【＜】【＞】で、表示したいレイアウトを選びます。
• 【＜】【＞】を押すと、画面右横のレイアウト見本が切り替わります。

重要! • レイアウト見本上に表示されるのはアルバムのレイアウトおよび背景色です。一覧／情報表示付きかどうかやリンクのあり／なしは表示されません。

アルバムの詳細を設定する

1. 再生モードにして【□】を押します。

2. 【∧】【∨】で"設定"を選び、【>】を押します。



3. 【∧】【∨】で設定項目を選び、【>】を押します。
- 各設定項目の設定内容につきましては、下記をご覧ください。

4. 【∧】【∨】で設定内容を選び、【SET】を押します。

■ 背景色を選ぶ

アルバムの背景色を白／黒／グレーの中から選ぶことができます。
- 背景色を選ぶと、一つ前の画面で表示されていたレイアウト見本上に選んだ色が表示されます。

■ タイプを選ぶ

アルバムのタイプを、標準タイプと一覧／情報付きタイプに切り替えることができます。

標準タイプ：選んだレイアウトに従って画像を表示するタイプです。
一覧／情報付きタイプ：アルバム表示の他、画像の簡単な一覧表示や撮影時の情報を同時に表示できるタイプです。

■ ファイルリンクのあり／なしを設定する

Webブラウザ上で、画像の拡大、動画の再生ができるように設定することができます。

なし：詳細画像でアルバム表示するため、アルバムをきれいに印刷したい場合にお使いください。ただし、表示するのに時間がかかる場合があります。また、画像の拡大や動画の再生はできません。
あり：まず、簡易画像でアルバム表示されますので、簡単に画像を確認したりホームページ上で素早く閲覧したい場合に便利です。また、画像をクリックすると、大きな画像が表示されますので細部を確認したり、画像を1枚ずつきれいに印刷したい場合にお使いください。AVIファイルをクリックすると動画を再生します。

■ 自動作成をする／しないを設定する

アルバム用のファイルを、電源を切ったときに自動的に作成するかどうかを設定することができます。

切：電源を切ったとき、アルバム用のファイルを自動的に作成しません。
入：電源を切ったとき、内蔵メモリーまたはメモリーカード内にアルバム用のファイルを自動的に作成します。

重要!
- 自動作成を"入"に設定している場合、電源を切ると【液晶モニター】は消灯しますが、緑の【動作確認用ランプ】は数秒間点滅しています。この間はアルバム用のファイルを作成していますので、下記の操作は絶対に行わないでください。
  －【電池カバー】を開ける
  －メモリーカードを抜く
  －その他異常操作

参考
- 自動作成を"入"に設定すると、電源を切るときにアルバム用のファイルを作成するため、メモリー内の画像枚数に応じて、電源が切れるまでの時間が長くなります。もし、アルバム機能を使用しない場合は、自動作成を"切"に設定することをおすすめします。"切"に設定すると電源が切れるまでの時間が短くなります。

アルバムファイルを見るには

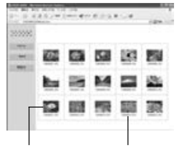
アルバムファイルはパソコンで使用しているWebブラウザで見たり、印刷することができます。

1. 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のデータをパソコンに読み込むか、メモリーカードをパソコンに接続します(94、96ページ)。

2. 内蔵メモリーまたはメモリーカード内の"DCIM"フォルダの中の"ALBUM"フォルダを開きます。

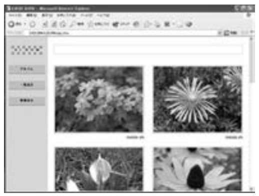
3. "INDEX.HTM"ファイルをWebブラウザで開きます。
- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のフォルダの画像が一覧表示されます。

一覧／情報付きタイプの場合

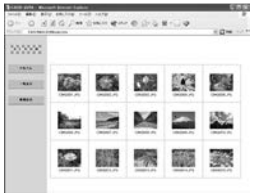


画像　ファイル名

4. 一覧／情報付きタイプでアルバムを作成した場合は、インターネットのホームページを見る要領で下記の部分をクリックして操作します。
アルバム：カメラで作成したアルバムが表示されます。
一覧表示：フォルダ内の画像の一覧が表示されます。
情報表示：各画像の情報が表示されます。
- リンクを"あり"に設定しているとき、パソコン上に表示されている画像をダブルクリックすると、撮影したサイズそのままの大きさの画像が表示されます。



アルバム



一覧表示



情報表示

- 表示される画像情報の内容
  ファイルサイズ
  画像サイズ
  撮影画質
  撮影モード
  露出モード
  測光方式
  シャッタースピード
  絞り
  露出補正
  測距方式
  フラッシュモード
  シャープネス
  彩度
  コントラスト
  ホワイトバランス
  感度
  フィルター
  色強調
  フラッシュ光量
  デジタルズーム
  訪問先
  撮影日時
  モデル名

参考
- アルバム部分を印刷する場合は、Webブラウザの設定を下記のようにしておくことをおすすめいたします。
  －アルバムが表示されているフレームを選択する。
  －なるべく余白を少なくする。
  －背景の色を印刷可能な設定にする。
- 印刷や設定のしかたについては、Webブラウザの取扱説明書をお読みください。

5. アルバムを終了するには、Webブラウザを終了してください。

アルバムを保存するには

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内の"DCIM"フォルダごとパソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどに保存してください。"ALBUM"フォルダだけでは、必要なファイルが保存されませんのでご注意ください。保存後は"DCIM"内のファイルを更新したり消去しないでください。新たに画像を加えたり、消去したりすると、アルバムが正常に表示されなくなることがあります。
- メモリーカードを再びデジタルカメラで使用するときは、以前のファイルをすべて消去するか、フォーマットしてから使うことをおすすめします。ただし、フォーマットすると、メモリー内のデータはすべて消えます。

付録

メニュー一覧表

撮影モード、再生モードの各タブのメニューに表示される項目の一覧表です。
• 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。

撮影モード

●撮影設定タブメニュー

サイズ	2304 ×1712／2240 ×1680 1600 ×1200／1280 ×960／ 640 ×480
画質	高精細／標準／エコノミー
ホワイトバランス	オート／太陽光／日陰／電球／蛍光灯／マニュアル
ISO 感度	オート／ISO 100 ／ISO 200
測光方式	マルチ／中央重点／スポット
フィルター	切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫
色強調	切／赤強調／緑強調／青強調／肌色強調
シャープネス	ソフト／標準／ハード
彩度	低／標準／高
コントラスト	低／標準／高
フラッシュ光量	弱／標準／強
グリッド表示	切／入
デジタルズーム	切／入

●モードメモリタブメニュー

フラッシュ	入／切
フォーカス方式	入／切
ホワイトバランス	入／切
ISO 感度	入／切
測光方式	入／切
フラッシュ光量	入／切
デジタルズーム	入／切
MF位置	入／切

●設定タブメニュー

ファイルNo.	入／切
操作音	入／切
起動画面	入(画像選択)／切
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年
日時設定	日付と時刻の設定
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	3分／5分／切
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

再生モード

●再生設定タブメニュー

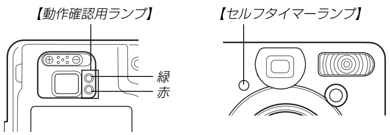
リサイズ	1280×960／640×480／キャンセル
トリミング	ー
アラーム	アラームの詳細設定
コピー	内蔵→カード／カード→内蔵／キャンセル

●設定タブメニュー

ファイルNo.	入／切
操作音	入／切
起動画面	入(画像選択)／切
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年
日時設定	日付と時刻の設定
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	3分／5分／切
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

ランプの状態と動作内容

カメラ本体には緑と赤の【動作確認用ランプ】と、【セルフタイマーランプ】の3つのランプがあります。これらのランプは、カメラの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。



※ランプの点滅間隔は3種類あります。点滅1では1秒間に1回、点滅2では1秒間に2回、点滅3では1秒間に4回点滅します。

撮影モード

動作確認用ランプ		セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	赤	
点灯			起動中(電源オン時、撮影可)
点滅1	点滅1		インターバル撮影中止
	点滅3		フラッシュ充電中
	点灯		フラッシュ充電完了
点灯			オートフォーカス合焦
点滅3			オートフォーカス合焦不可
点灯			LCDオフ
点滅2	点滅2		撮影記録中
点滅1	点滅1		ムービー取り込み中
		点滅1	セルフタイマーカウンドダウン 10〜3秒前
		点滅2	セルフタイマーカウンドダウン 3〜0秒前
	点滅1		フラッシュ充電不可
	点滅2		メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット／カスタム登録不可
	点灯		メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル／書き込みエラー
	点滅3		電池交換警告
点滅3			フォーマット中
点滅3			終了中(電源オフ時)

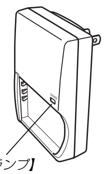
重要! • カメラにメモリーカードを入れているときは、緑の【動作確認用ランプ】が点滅中にメモリーカードを取り出すことは絶対にお止めください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

再生モード

動作確認用ランプ		セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	赤	
点灯			起動中(電源オン時、撮影可)
点滅1			インターバル撮影中止
点滅3			消去実行中／DPOF実行中／プロテクト実行中／コピー実行中／アルバム作成中／フォーマット中／終了中(電源オフ時)
	点滅2		メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット
	点灯		メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル
	点滅3		電池交換警告

充電器(付属品)

充電器には【CHARGEランプ】があり、充電器の動作内容によって、点灯したり、点滅したりします。



【CHARGEランプ】

CHARGEランプ		内容
緑	赤	
	点灯	充電中
点灯		充電完了
	点滅1	充電不可(周辺温度が高いまたは低いため)
	点滅3	充電器または電池の異常

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

	現　象	考えられる原因	対　処
電源について	電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない。 2) 電池が消耗している。	1) 電池を正しい向きに入れてください(→22ページ)。 2) 電池を充電してください(→21ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売のリチウムイオン充電池(NP-30)をお買い求めください。
	電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた(→28ページ)。 2) 電池が消耗している。	1) 再度電源を入れ直してください。 2) 電池を充電してください(→21ページ)。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1)【モードダイヤル】が"▶"(再生モード)になっている。 2)【フラッシュ】充電中である。 3) "メモリーフル"と表示されている。	1)【モードダイヤル】を撮影モード(→32ページ)に合わせてください。 2)【フラッシュ】の充電が終わるまで待ってください。 3) パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1)【レンズ】が汚れている。 2) 被写体が【フォーカスフレーム】の中央にない。 3) ピントの合いにくい被写体である(→34ページ)。 4) 手ぶれしている。	1)【レンズ】をきれいにする。 2) 被写体を【フォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3) マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせる(→46ページ)。 4) 三脚を使用してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【フォーカスフレーム】を合わせて撮影してください。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	電池を充電してください(→21ページ)。
	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスモードでピントが合わせがずれている。 2) 被写体が風景や人物なのに、マクロモードになっている。 3) 接写しているのに、オートフォーカスモードや"∞"(無限遠モード)になっている。	1) ピントを合わせる(→46ページ)。 2) 風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにする。 3) 接写撮影をする場合はマクロモードにする。
	撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた。	1) バッテリー残量表示が ▭ になったら、速やかに電池を充電してください(→21ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。	直接光がレンズに当たらないようにしてください。
	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。

	現　象	考えられる原因	対　処
その他	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池をいったん取り出し、入れ直してから再度操作してみてください。
	【液晶モニター】がつかない。	1) USB通信中である。 2) 撮影モードで【液晶モニター】をオフにしている。	1) メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認してUSBケーブルを抜いてください。 2)【DISP】を押して【液晶モニター】をオンにしてください。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない。 2) USBドライバがインストールされていない。 3) カメラの電源が入っていない。	1) コネクター端子部を確認して、確実に接続してください。 2) USBドライバをインストールしてください(→89ページ)。 3) カメラの電源を入れてください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のとき表示されます。撮影し直してください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが出るときは、フォーマットしてください(87ページ)。 **重要!** • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(87ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。

この機能は使用できません	カメラにメモリーカードを入れない状態で、内蔵メモリーからメモリーカードへファイルをコピーしようとしたときに表示されます(88ページ)。
このファイルではこの機能は使用できません	各種機能を実行しようとしたときに、実行できなかった場合に表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットモードでシーンフォルダの中に999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合表示されます。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。

ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つも無い状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9,999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(72ページ)。
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(72ページ)。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品　名 .... デジタルカメラ
機種名 QV-R4

■カメラ機能

記録画像ファイル
フォーマット .... 静止画：JPEG(Exif Ver.2.2)、DCF (Design rule for Camera File system) 1.0準拠、DPOF対応
動画　：AVI (Motion JPEG)

記録媒体 内蔵フラッシュメモリー11MB
SDメモリーカード(SD Memory Card)
マルチメディアカード(MultiMediaCard)

記録画素数 .... 静止画：2304×1712 pixels
2240×1680 pixels
1600×1200 pixels
1280×　960 pixels
640×　480 pixels

画像記録枚数／ファイルサイズ(可変長)

• 静止画

画像サイズ(pixels)	画像	画像ファイルサイズ	内蔵フラッシュメモリー11MB	SDメモリーカード* 64MB
2304×1712	高精細	約1.8MB	約5枚	約30枚
	標　準	約1.4MB	約7枚	約40枚
	エコノミー	約1.0MB	約9枚	約54枚
2240×1680	高精細	約1.8MB	約5枚	約30枚
	標　準	約1.4MB	約7枚	約40枚
	エコノミー	約1.0MB	約9枚	約54枚
1600×1200 (UXGA)	高精細	約1050KB	約9枚	約53枚
	標　準	約710KB	約14枚	約79枚
	エコノミー	約370KB	約27枚	約154枚
1280×960 (SXGA)	高精細	約680KB	約14枚	約82枚
	標　準	約460KB	約22枚	約126枚
	エコノミー	約250KB	約39枚	約220枚
640×480 (VGA)	高精細	約190KB	約52枚	約294枚
	標　準	約140KB	約68枚	約386枚
	エコノミー	約90KB	約110枚	約618枚

• 動画(320×240pixels)

記録容量	最大約200KB/秒
撮影時間	一度に撮影可能な最長時間：30秒 撮影可能なトータル時間： 最長約60秒(内蔵メモリーの場合) 最長約5分30秒(SDメモリーカード*64MBの場合)

※ 記録枚数は、撮影できる枚数の目安です。
※ 松下電器産業(株)製の場合です。撮影枚数はメーカーによって異なります。
※ 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。

消去 .... 1ファイル単位、全ファイル一括消去可能
(メモリープロテクト機能付き)

有効画素数 400万画素

撮像素子 1/1.8インチ正方画素原色CCD
(総画素数：413万画素)

レンズ／焦点距離 ...... F2.6-4.8/f=7.6〜22.8mm
(35mmフィルム換算37.5〜112.5mm相当)

ズーム .... 光学ズーム3倍／デジタルズーム3.2倍
(光学ズーム併用9.6倍)

焦点調節 .... コントラスト方式オートフォーカス、マクロモード、無限遠モード、フォーカスロック可能、マニュアルフォーカス可能

撮影可能距離
(レンズ表面より) ...... 標準：約40cm〜∞

接写 .... 14cm〜50cm
(光学ズームは使用できません。最も広角側に固定されます。)

露出制御 .... 測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光
制御方式：プログラムAE
露出補正：−2EV〜+2EV(1/3EV単位)

シャッター .... CCD電子シャッター／メカシャッター併用
2〜1/2000秒

絞り .... F2.6、F5.0、オート

ホワイトバランス ...... 自動／固定(4モード)／マニュアル

セルフタイマー .... 作動時間約10秒、2秒、トリプルセルフタイマー

内蔵フラッシュ .... 発光モード：自動発光、発光禁止、強制発光、赤目軽減機能切替可能
フラッシュ撮影範囲：約0.4m〜約2.8m

撮影関連機能 .... 通常モード、ベストショットモード、カップリングショットモード、夜景モード、マニュアル撮影モード、ムービーモード、インターバルモード

モニター 1.6型TFTカラー液晶
84,960(354×240)画素

ファインダー .... 液晶モニター／光学式ファインダー

時計機能 .... クォーツデジタル時計内蔵
日付・時刻：画像データと同時に記録
自動カレンダー：2049年まで

ワールドタイム .... 世界162都市(32タイムゾーン)に対応
都市名、日付、時刻、サマータイム

入出力端子 .... 外部電源端子(DC 4.5V)、USB端子(Mini-B)

■電源部、その他

電源 .... リチウムイオン充電池(NP-30)×1個
ACアダプター(AD-C40)

電池寿命

連続撮影時間(撮影枚数)	約1時間50分(約660枚)
連続再生時間	約3時間40分

※ 電池寿命は、標準温度(25℃)で使用した場合(23ページ)の電源が切れるまでの目安であり、保証時間ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

消費電力 .... DC 4.5V　約5.4W

外形寸法 .... 幅90.0mm×高さ59.0mm×奥行き31.0mm
(突起部除く) 最厚部：35.0mm

質量 .... 約200g(電池、付属品除く)

付属品 .... リチウムイオン充電池(NP-30)、充電器(BC-20)、専用USBケーブル、ストラップ、CD-ROM、取扱説明書(保証書付き)

■リチウムイオン充電池(NP-30)

定格電圧 3.7V

定格容量 1000mAh

使用周囲温度 .... 0〜40℃

外形寸法 .... 幅35.3×高さ53.1×奥行7.1mm

質量 約28g

■充電器(BC-20)

入力電源 .... AC100−240V　0.2A　50/60Hz

出力 .... DC 4.2V　650mA

使用温度範囲 .... 0〜40℃

適合電池 .... カシオ専用リチウムイオン充電池(NP-30)

充電時間 約2時間

外形寸法 .... 幅65mm×奥行90mm×高さ30.5mm
(突起部含まず)

質量 約100g

電源について
• 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池NP-30をお使いください。他の電池は使用できません。
• 本機には時計専用の電池は入っておりません。電池やACアダプターで電源が供給されていないと、約12時間で日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください(31ページ)。

液晶パネルについて
• 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

別売品

• ACアダプター　AD-C40
• リチウムイオン充電池　NP-30
• ソフトケース　QSC-4

別売品は、お買い求めの販売店もしくは、カシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)にご用命ください。

e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/

索引

英数字

あ

か

さ

た

MEMO

MEMO

MEMO

QVNetのお知らせ

QVNetは入会無料！カシオ製デジタルカメラをお買い上げのお客様を対象としたインターネット上の会員制サービスです。

http://QVNet.casio.co.jp/

主なサービス内容 ※1

QVNet（会員制）

開発フォーラム 当社のQV開発者が直接応答	**フリートーク** 会員同士で自由に意見交換
ダウンロード QV関連 ソフトダウンロード	**撮影テク講座** 講師陣が作例を示し 撮影テクを提供
QVNet News QV最新情報をメールで配信	**撮影画像掲示板** ※2 デジタルカメラ画像投稿用の 掲示板

● 入会は簡単！会員登録とユーザー登録が同時に済みます。
● アンケートはがきを投函せず、ネット上での回答もＯＫ。
● ユーザー登録のしかた
ユーザー登録はQVNet(http://QVNet.casio.co.jp/)の【ユーザー登録(会員登録)】から【ユーザー登録】の画面に入り、機種リストからご利用のデジタルカメラを選択して登録を行ってください。

その他のＱＶ関連ウェブ情報

QV PLAZA（一般公開）※3

QV INFO 製品情報	**QV SUPPORT** 各種FAQや動作確認情報
QV FAN カシオ製デジタルカメラのファンサイトなどのリンク集	

※1 QVNetのサービス内容は会員の意見・要望や公開アンケートの結果により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
※2 撮影テク講座と撮影画像掲示板は、会員以外の方でもアクセス可能です。
※3 QV PLAZAのアドレスはhttp://www.casio.co.jp/QV/です。